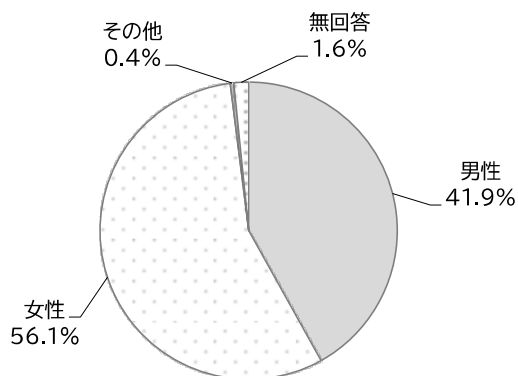


## 5. 調査結果

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

「男性」が41.9%、「女性」が56.1%「その他」が0.4%となっている。

(N=14,070)

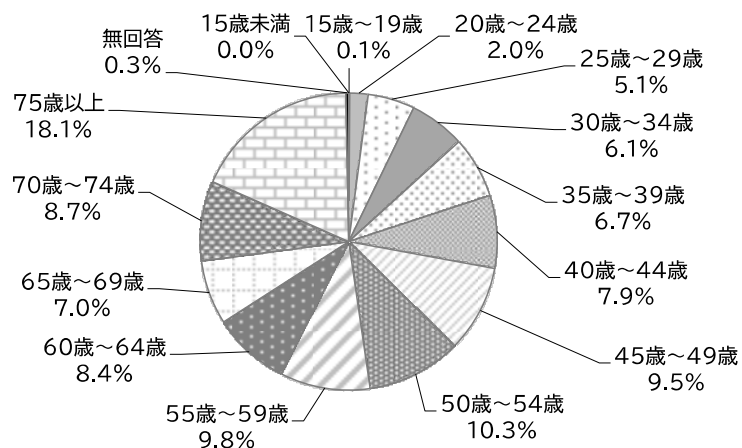


問2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つだけ)

(※令和5年6月16日現在の年齢をお答えください)

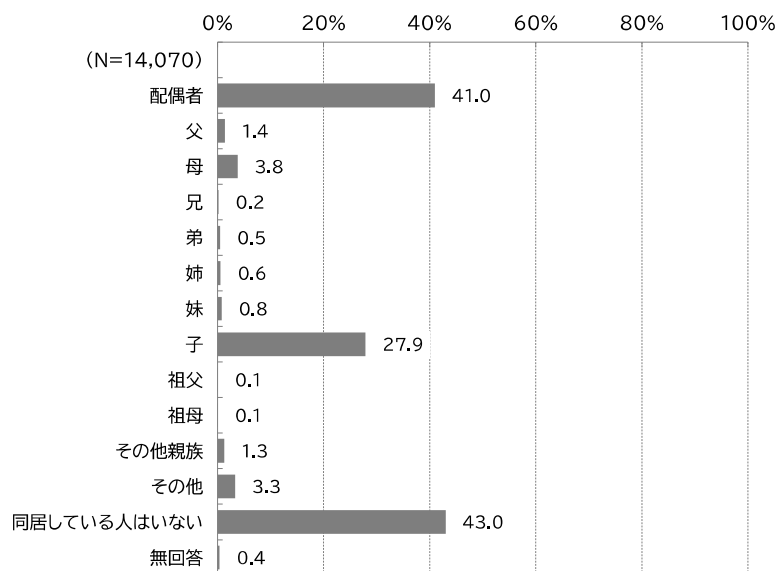
「75歳以上」が18.1%と最も多く、次いで「50歳～54歳」が10.3%、「55歳～59歳」が9.8%となっている。

(N=14,070)



問3 現在、あなたと同居している方をお答えください。(〇はいくつでも)  
 なお、「配偶者」には、婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にある方を  
 含めます。

「同居している人はいない」が43.0%と最も多く、次いで「配偶者」が41.0%、「子」が  
 27.9%となっている。

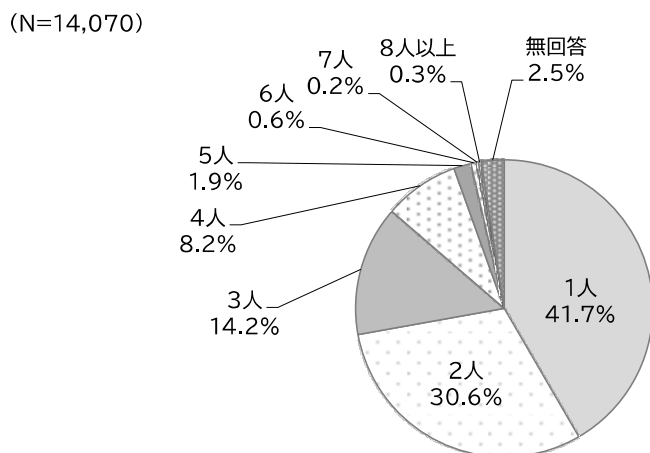


その他の主な内容 (430 件)

- パートナー、内縁関係の相手 (66 件)
- 孫 (66 件)
- 友人・知人 (64 件)

問4 現在、あなたを含めて何人で同居しているかをお答えください (〇は1つだけ)

「1人」が41.7%と最も多く、次いで「2人」が30.6%、「3人」が14.2%となっている。



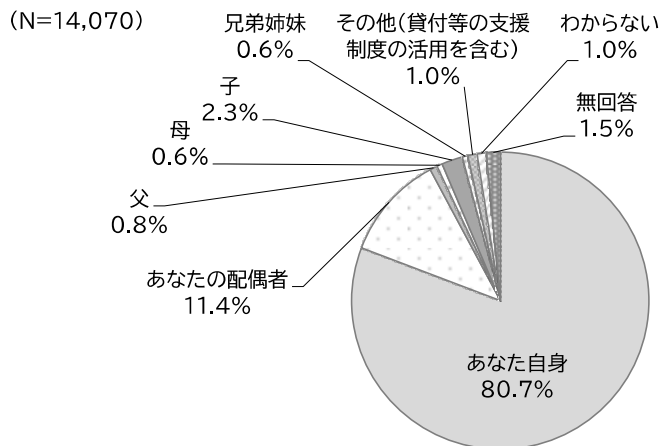
問5 同居者全員の中で、主たる生計維持者はどなたですか？（○は1つだけ）

※生計維持者が複数人いる場合は、一番収入の高い人をご回答ください。

※同世帯か、別世帯かは問いません。

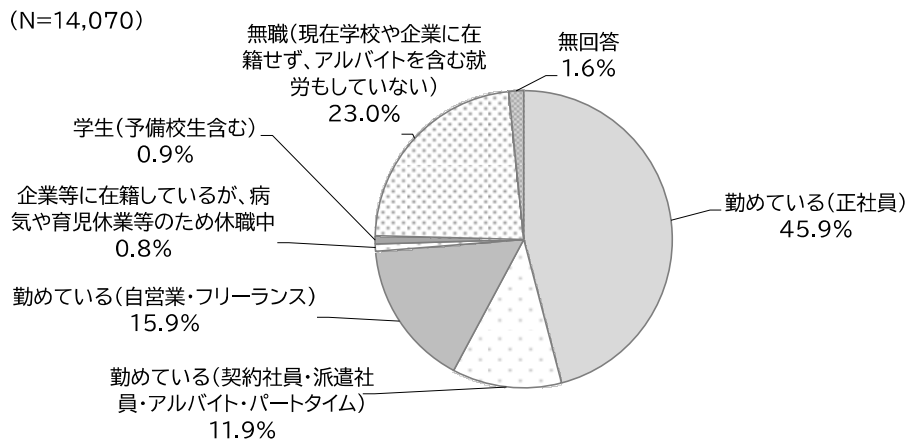
※仕送りで生計を立てている方は、その仕送り主をお答えください。

「あなた自身」が80.7%と最も多く、次いで「あなたの配偶者」が11.4%、「子」が2.3%となっている。



問6 あなたの現在の就学・就労状況をお答えください。（○は1つだけ）

「勤めている（正社員）」が45.9%と最も多く、次いで「無職（現在学校や企業に在籍せず、アルバイトを含む就労もしていない）」が23.0%、「勤めている（自営業・フリーランス）」が15.9%となっている。

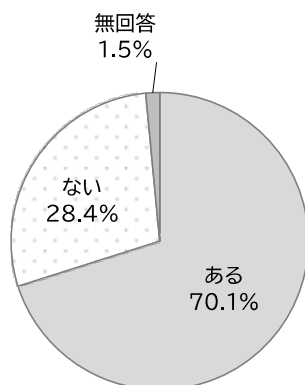


問7は、問6で「6. 無職（現在学校や企業に在籍せず、アルバイトを含む就労もしていない）」を選択した人が回答。

問7 これまでにアルバイトやパートを含む就労をしたことがありますか。（〇は1つだけ）

「ある」が70.1%、「ない」が28.4%となっている。

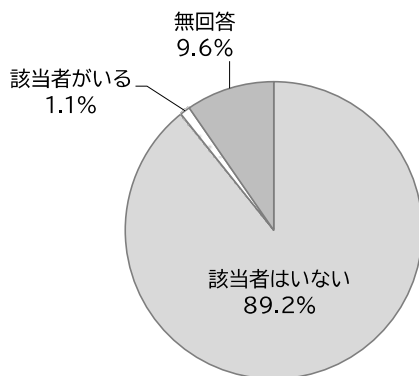
(N=3,243)



問8 あなたを含む同居者の中で、次の①～③の全ての状況に該当する方がいるかお答えください。（〇は1つだけ）

「該当者がいる」が1.1%（158人）、「該当者はいない」が89.2%となっている。

(N=14,070)



【ひきこもりの該当者の条件】

- ① 自宅から外出をほとんどしない、または近所のコンビニやスーパー等の販売店、通院・趣味の用事の時のみ外出をする
- ② 家族以外の人と直接の会話をしない、または家族以外の人との交流を避けている  
(①のコンビニやスーパー等の店員、医師・看護師等の医療機関受診時の会話等を除く)
- ③ ①から②の状態が6か月以上続いている

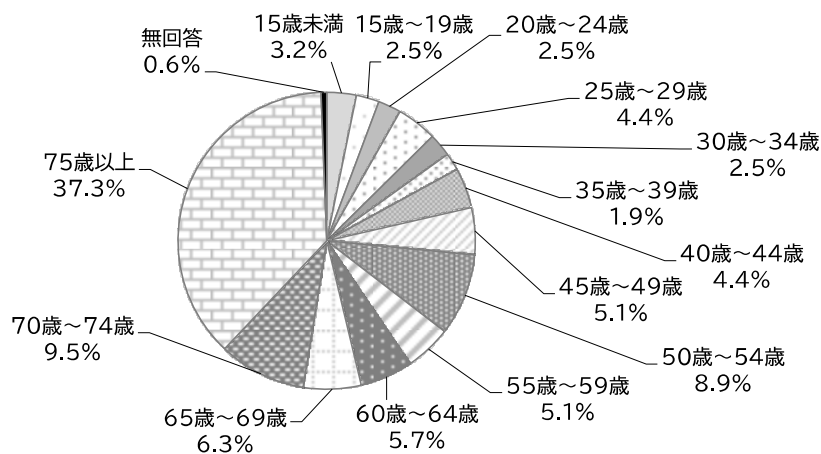
問9から問12は、問8で「2. 該当者がいる」を選択した人が回答。

問9 問8に該当する方の年齢を選択してください。(○は1つだけ)

(複数人該当する場合は、その状態が一番長い方についてお答えください)

「75歳以上」が37.3%で最も多い。39歳以下の合計では17.0%、15歳から64歳以下では43.0%、65歳以上では53.1%となっている。

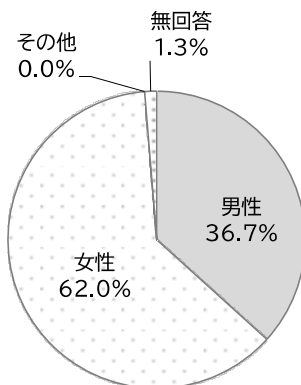
(N=158)



問10 問8に該当する方の性別をお答えください。(○は1つだけ)

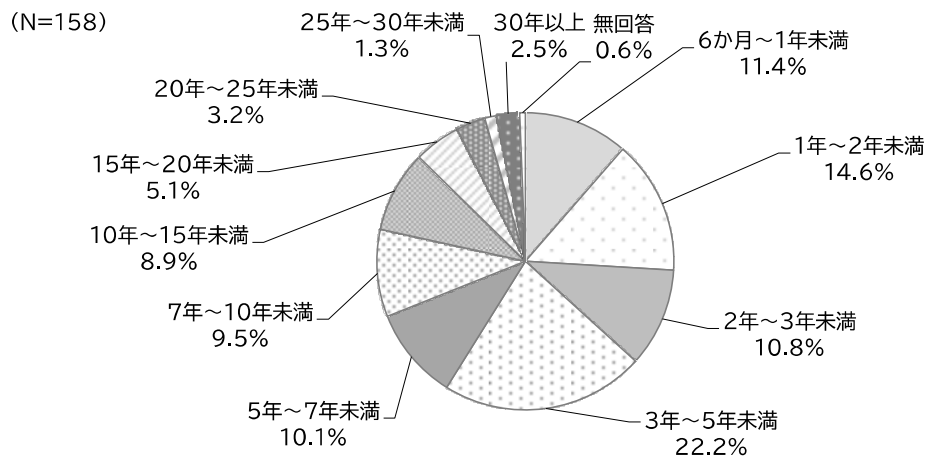
「男性」が36.7%、「女性」が62.0%となっている。

(N=158)



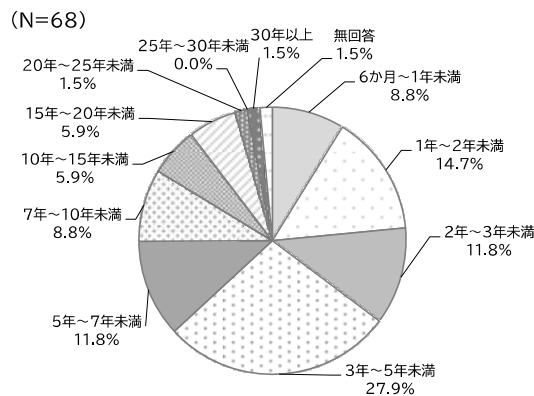
問11 問8の状態の期間はどのくらいですか？（〇は1つだけ）

「3～5年」が22.2%で最も多い。5年未満の合計では59.0%となっている。

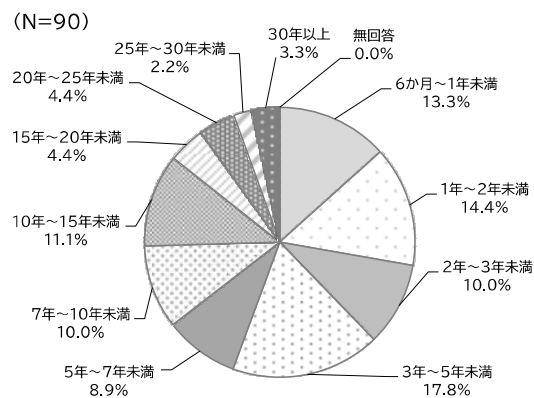


(参考)

ひきこもりの該当者のうち、問16で「1. 回答者本人」を選択した人



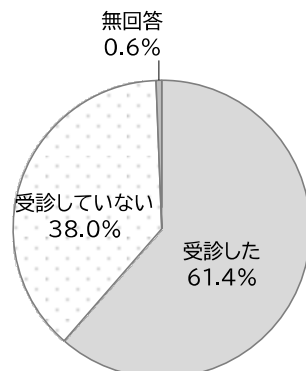
ひきこもりの該当者のうち、問16で「2. 同居人」を選択した人



問12 問8の状態になってから医療機関を受診しましたか？（○は1つだけ）

「受診した」が61.4%、「受診していない」が38.0%となっている。

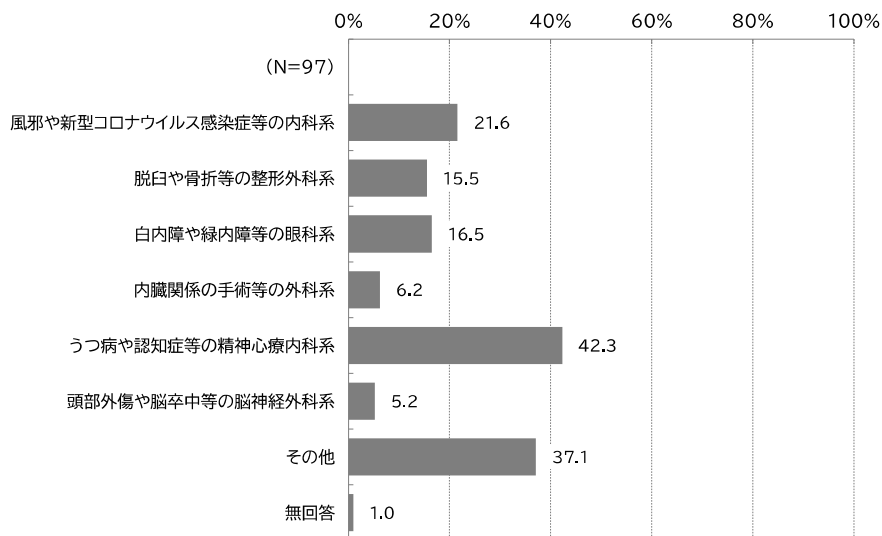
(N=158)



問13と問14は、問12で「1. 受診した」を選択した人が回答。

問13 どのような理由で受診しましたか？（○はいくつでも）

「うつ病や認知症等の精神心療内科系」が42.3%と最も多く、次いで「その他」が37.1%、「風邪や新型コロナウイルス感染症等の内科系」が21.6%となっている。

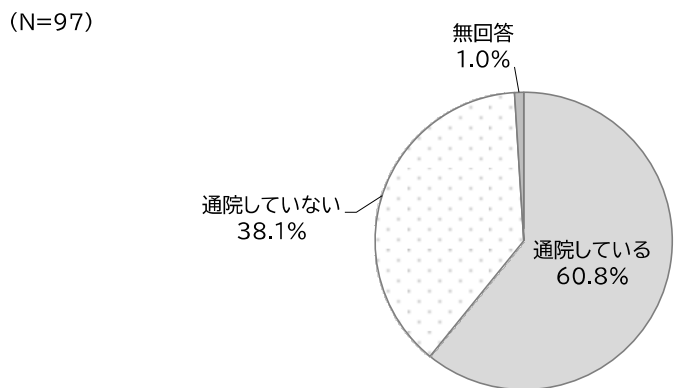


その他の主な内容（41件）

- 風邪や新型コロナウイルス感染症等の内科系以外の内科呼吸器、循環器、消化器（13件）
- 歯科（7件）
- 肺炎（3件）

問 14 現在も通院していますか？（○は1つだけ）

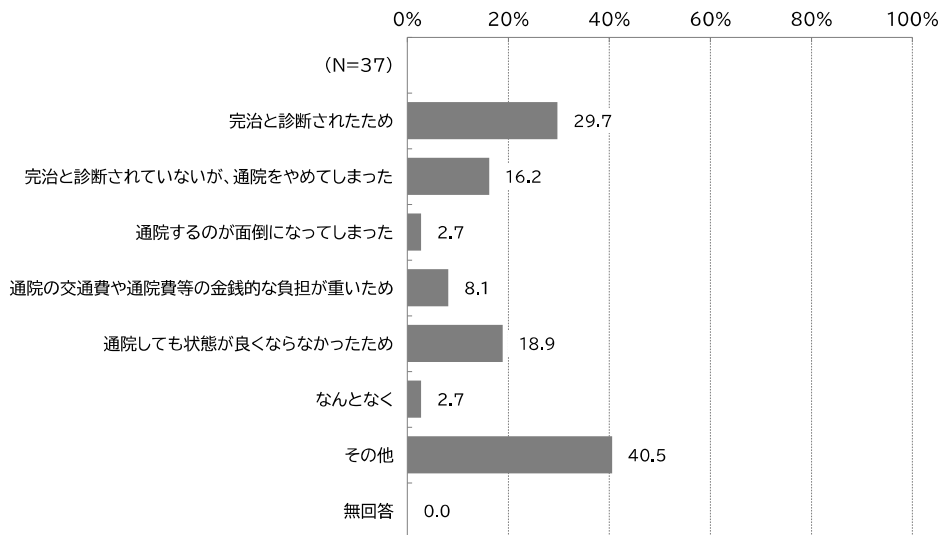
「通院している」が60.8%、「通院していない」が38.1%となっている。



問 15 は、問 14 で「2. 通院していない」を選択した人が回答。

問 15 通院していない理由はなんですか？（○はいくつでも）

「その他」40.5%を除くと、「完治と診断されたため」が29.7%と最も多く、次いで「通院しても状態が良くならなかったため」が18.9%となっている。



その他の内容（13件）

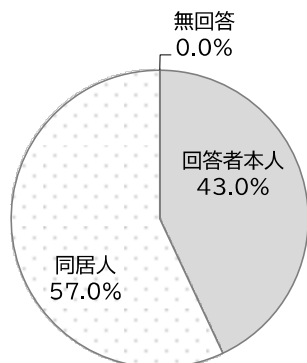
- 訪問診療のため（6件）
- 必要性がないため/健康なため（5件）
- 本人が通院を希望しないため（1件）
- 高齢で通院が困難なため（1件）



問 16 問 8 の状態の人は、どなたですか？（○は 1 つだけ）

「回答者本人」が 43.0%、「同居人」が 57.0%となっている。

(N=158)

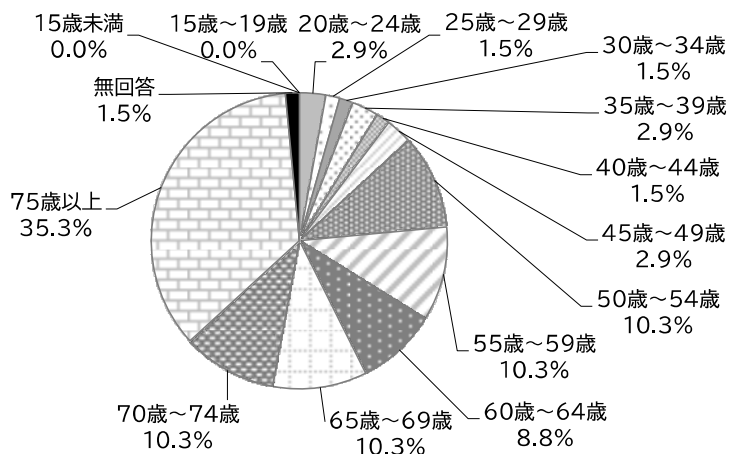


問 17 から問 37 は、問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人が回答。

問 17 問 8 の状態になったのは何歳の頃ですか。

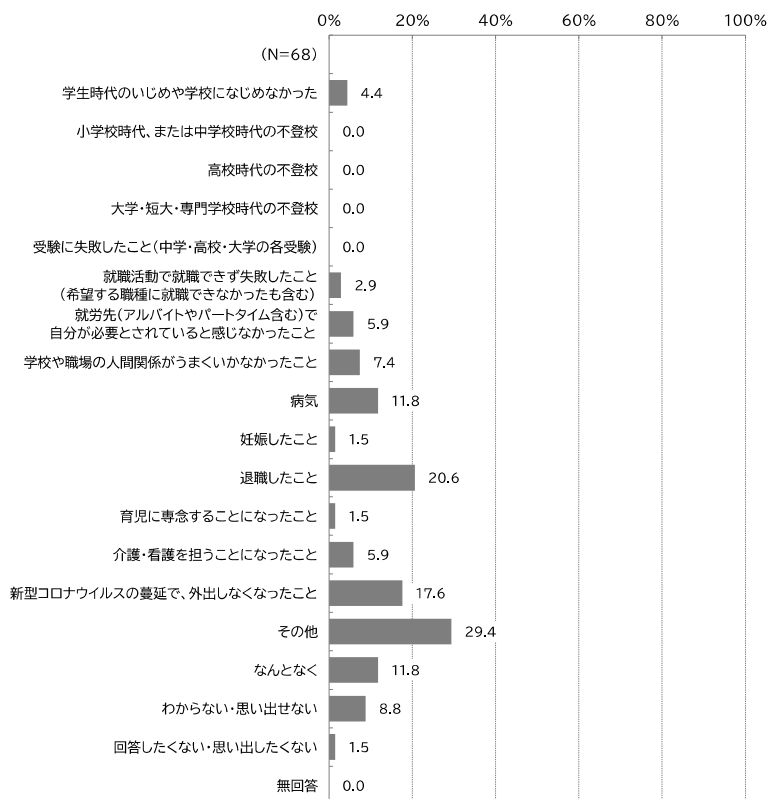
「75 歳以上」が 35.3%で最も多い。39 歳以下の合計では 8.8%、15 歳から 64 歳以下の合計では 42.6%、65 歳以上の合計では 55.9%、70 歳以上の合計では 45.6%となっている。

(N=68)



問 18 問 8 の状態になったきっかけは何ですか？（〇はいくつでも）

「その他」（29.4%）を除くと、「退職したこと」が 20.6% で最も多く、次いで「新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと」が 17.6% となっている。



病名の内容 (5 件)

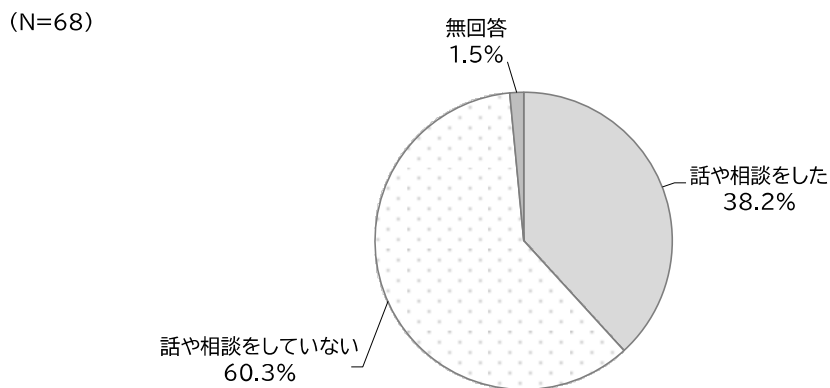
● うつ病 (2 件)
● 双極性感情障害 (1 件)
● 解離性障害 (1 件)
● 認知症 (1 件)

その他の主な内容 (21 件)

● 家族の死 (6 件)
● 高齢のため (6 件)
● 転居したため (2 件)

問 19 問 8 の状態を誰かに話や相談をしましたか？（○は 1 つだけ）

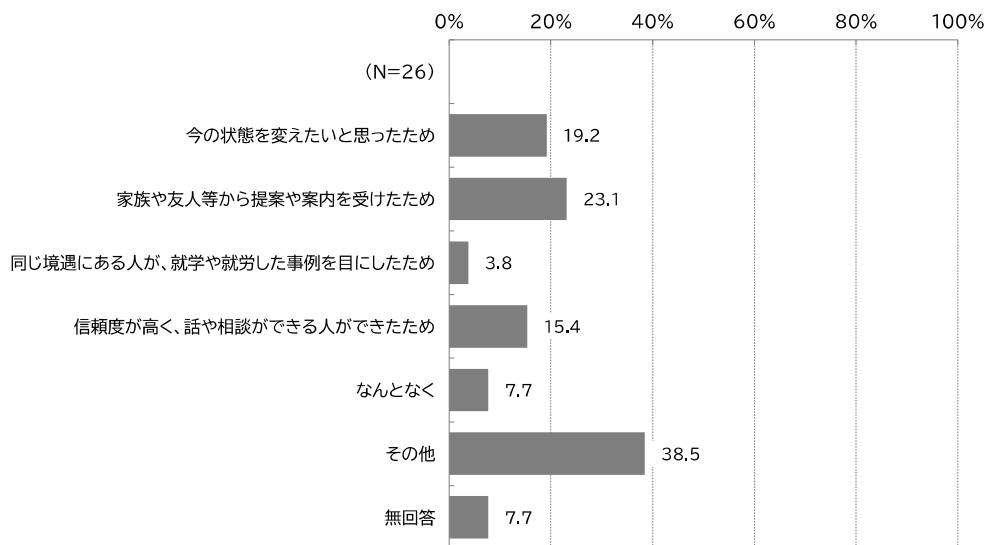
「話や相談をしていない」が 60.3%、「話や相談をした」が 38.2%となっている。



問 20 から問 22 は、問 19 で「1. 話や相談をした」を選択した人が回答。

問 20 話や相談をしたきっかけは何ですか？（○はいくつでも）

「その他」（38.5%）を除くと、「家族や友人等から提案や案内を受けたため」が 23.1%で最も多く、次いで「今の状態を変えたいと思ったため」が 19.2%となっている。

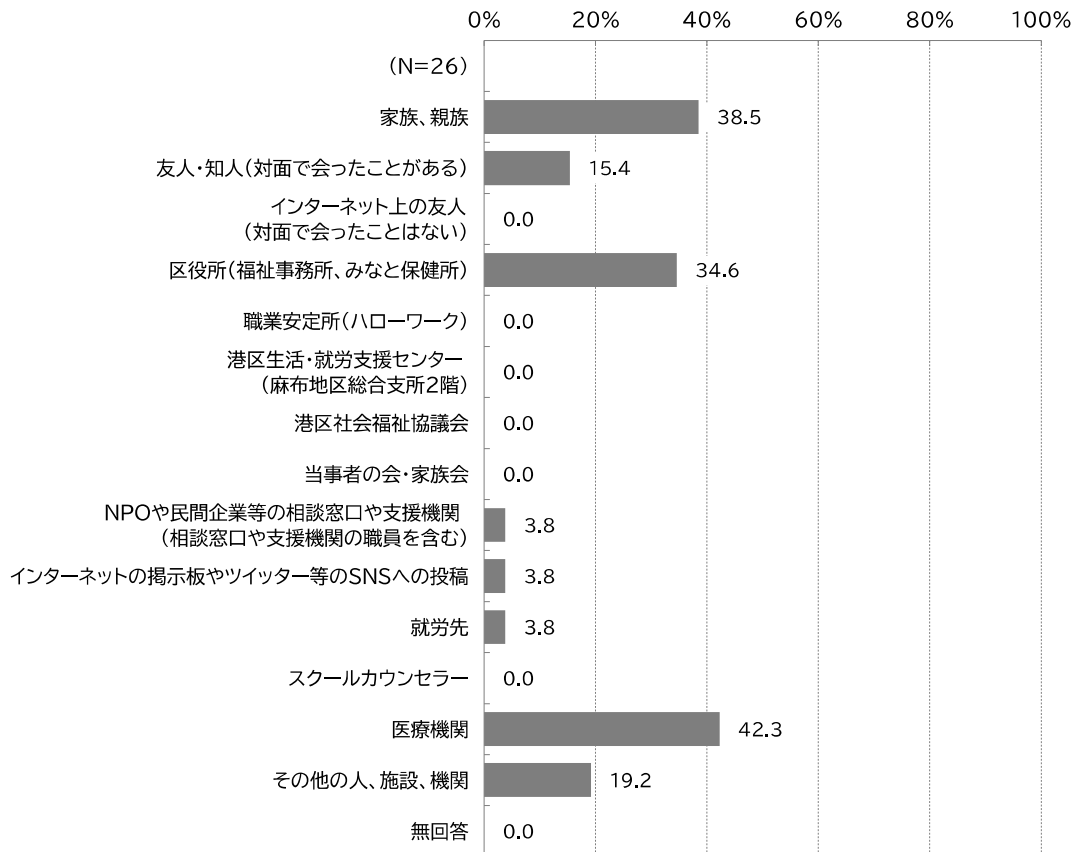


その他の内容（10 件）

● 報告義務があったため/強制されたため（2 件）
● 高齢になったため（2 件）
● 施設に入りたかったため（1 件）
● 医師に相談するため（1 件）
● 苦しかったため（1 件）
● 現状維持のため（1 件）
● 解決するしかなかったため（1 件）
● からだが動かなくなってきたため（1 件）

問 21 どこ（または誰）に話や相談をしましたか？（〇はいくつでも）

「医療機関」が42.3%と最も多く、次いで「家族、親族」が38.5%、「区役所（福祉事務所、みなと保健所）」が34.6%となっている。

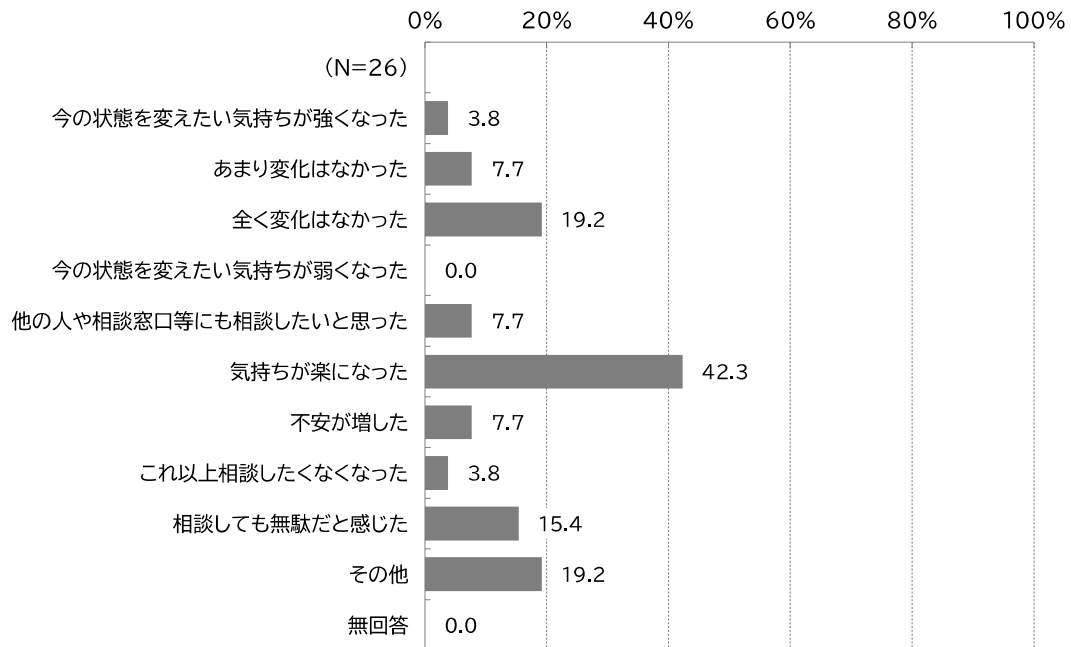


その他の人、施設、機関の内容 (7件)

● ケアマネジャー (2件)
● 子ども家庭支援センター (1件)
● 弁護士 (1件)
● 警察 (1件)
● 自殺センター (1件)
● 社会福祉士 (1件)

問 22 話や相談をした結果、どのような心境変化がありましたか？（〇はいくつでも）

「気持ちが楽になった」が42.3%と最も多く、次いで「まったく変化はなかった」と「その他」がそれぞれ19.2%となっている。



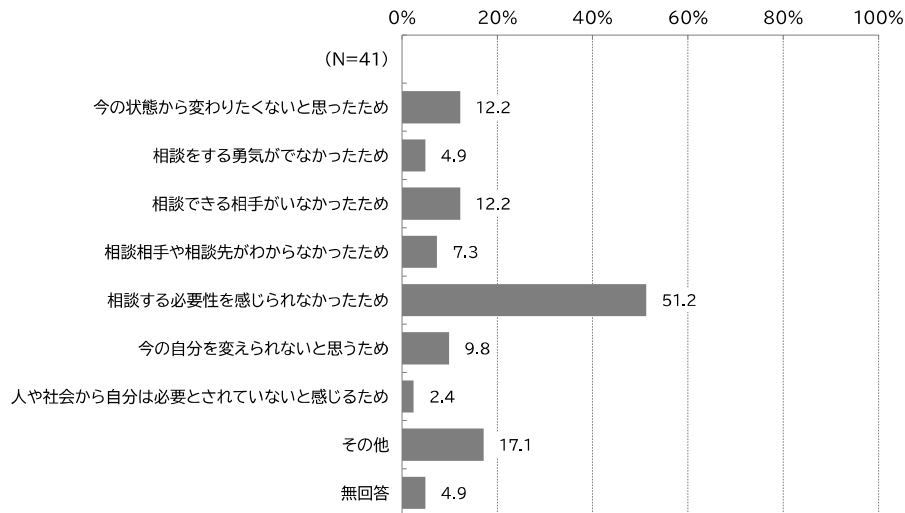
その他の内容 (4 件)

● 生活しやすくなった (2 件)
● 相談してよかった (1 件)
● 本人はわかっている状態 (1 件)

問 23 は、問 19 で「2. 話や相談をしていない」を選択した人が回答。

問 23 相談をしていない（またはしなかった）理由はなんですか？（○はいくつでも）

「相談する必要性を感じられなかったため」が 51.2% と最も多く、次いで「その他」が 17.1%、「今の状態から変わりたくないと思ったため」と「相談できる相手がいなかったため」がそれぞれ 12.2% となっている。

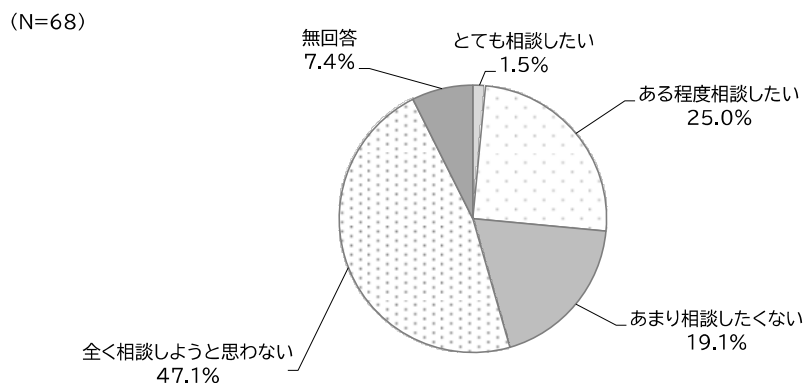


その他の主な内容（5 件）

- 高齢が原因なので仕方がないと思っているため（2 件）
- 病気については医師に相談しているため（1 件）
- 他の人も同じような状況だと思っているため（1 件）

問 24 現在の状態について、話や相談をしたいと思いますか。（○は1つだけ）

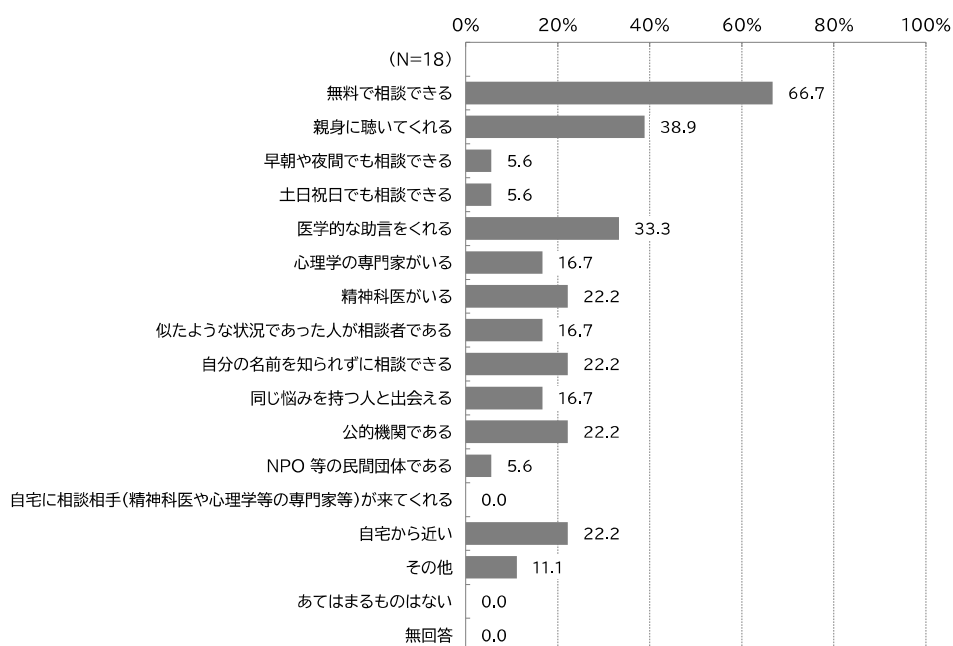
「まったく相談しようと思わない」が 47.1% と最も多い。「とても相談したい」と「ある程度相談したい」の合計 26.5% に対して、「全く相談しようと思わない」と「あまり相談したくない」の合計は 66.2% であり、話や相談を望まない割合が多い。



問 25 と問 26 は、問 24 で「1. とても相談したい」または「2. ある程度相談したい」を選択した人が回答。

問 25 相談相手や相談機関への要望内容を教えてください。(〇はいくつでも)

「無料で相談できる」が 66.7% と最も多く、次いで「親身に聴いてくれる」が 38.9%、「医学的な助言をくれる」が 33.3% となっている。

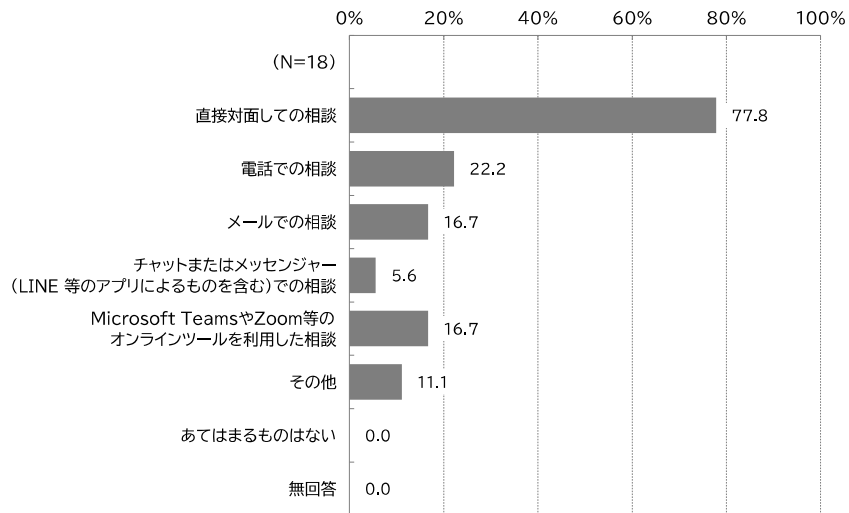


その他の主な内容 (2 件)

- 施設の人 (1 件)

問 26 相談相手や相談機関への希望する相談方法を教えてください。(〇はいくつでも)

「直接対面しての相談」が77.8%と最も多く、次いで「電話での相談」が22.2%、「メールでの相談」と「Microsoft Teams や Zoom 等のオンラインツールを利用した相談」がそれぞれ16.7%となっている。

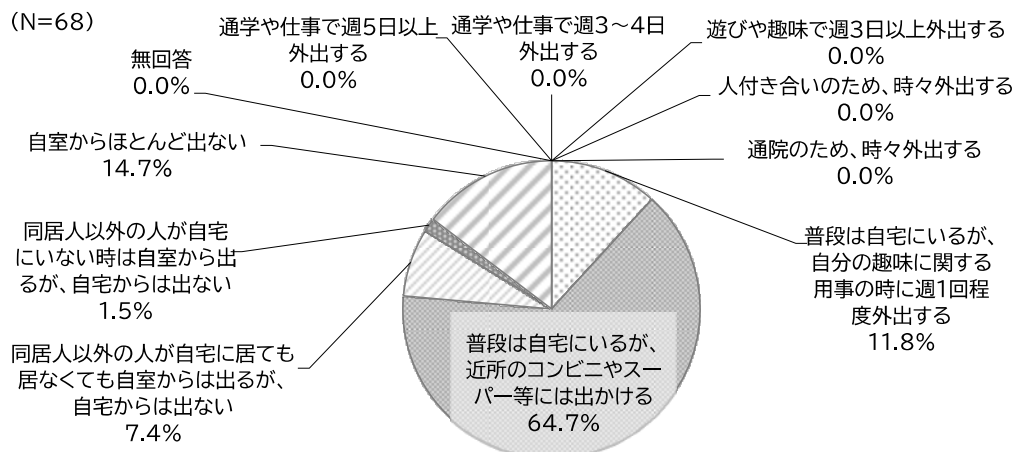


その他の主な内容 (2 件)

- よくわからない (1 件)

問 27 あなたの現在の外出頻度はどのくらいですか？ (〇は1つだけ)

「普段は自宅にいますが、近所のコンビニやスーパー等には出かける」が64.7%と最も多く、次いで「自室からほとんど出ない」が14.7%、「普段は自宅にいますが、自分の趣味に関する用事の時に週1回程度外出する」が11.8%となっている。



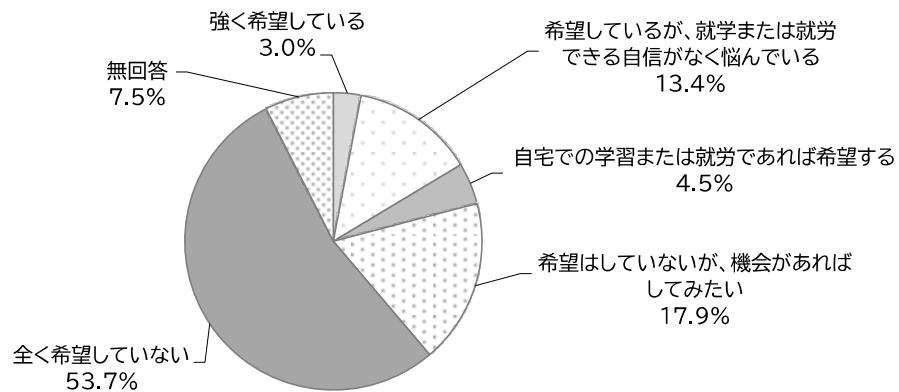


問 28 は、問 6 で「6 無職（現在学校や企業に在籍せず、アルバイトを含む就労もしていない）」を選択した人が回答。

問 28 就学または就労を現在希望していますか？（○は1つだけ）

「全く希望していない」が 53.7% と最も多く、次いで「希望はしていないが、機会があればしてみたい」が 17.9%、「希望しているが、就学または就労できる自信がなく悩んでいる」が 13.4% となっている。

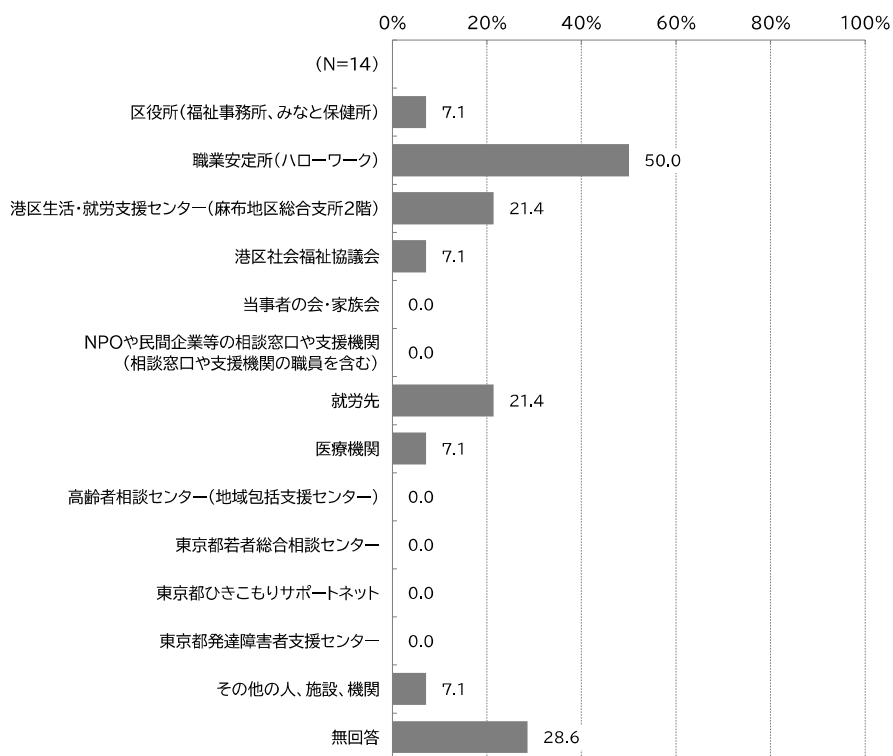
(N=67)



問 29 は、問 28 で「1. 強く希望している」「2. 希望しているが、就学または就労できる自信がなく悩んでいる」「3. 自宅での学習または就労であれば希望する」のいずれかを選択した人が回答。

問 29 就学または就労を目指すために、どこに相談をしたいと思いますか？（〇はいくつでも）

「職業安定所（ハローワーク）」が 50.0%と最も多く、次いで「港区生活・就労支援センター（麻布地区総合支所 2 階）」と「就労先」がそれぞれ 21.4%となっている。



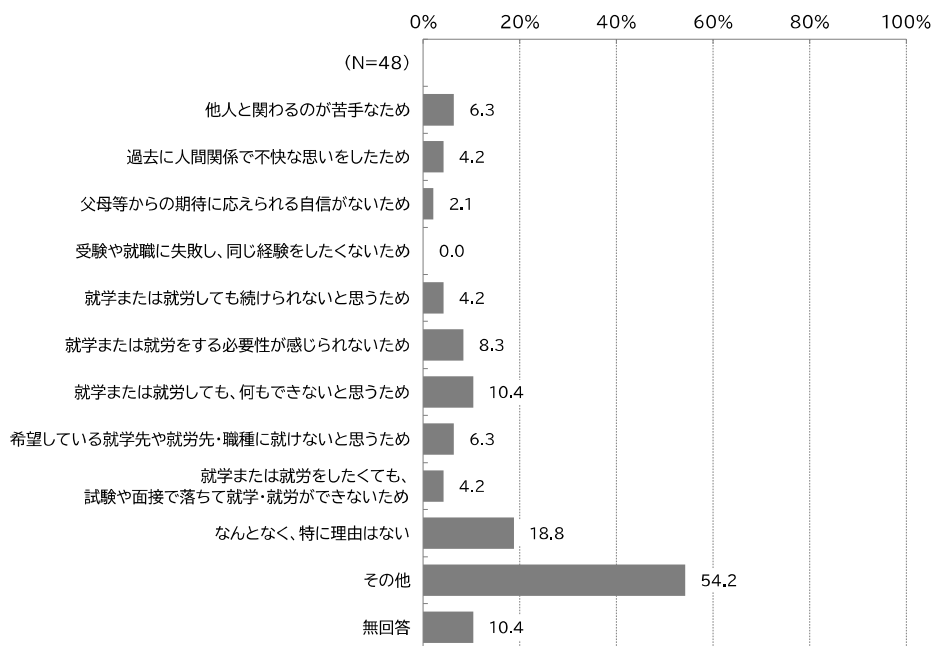
その他の人、施設、機関の内容（1 件）

- 紹介（1 件）

問30と問31は、問28で「4. 希望はしていないが、機会があればしてみたい」または、「5. 全く希望していない」を選択した人が回答。

問30 就学または就労したくない理由はなんですか？（〇はいくつでも）

「その他」（54.2%）を除くと、「なんとなく、特に理由はない」が18.8%で最も多く、次いで「就学または就労しても、何もできないと思うため」が10.4%となっている。内容としては身体的な理由が多かった。



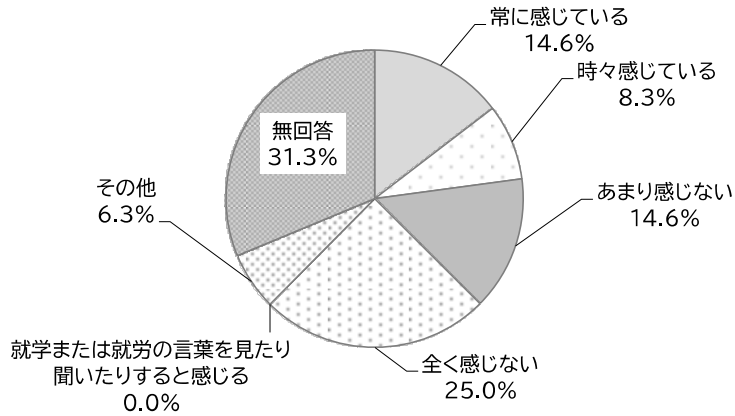
その他の主な内容（26件）

- 高齢のため（16件）
- 体調面に不安があるため（4件）
- 必要性を感じられないため（2件）

問 31 あなたは、問 30 で選択したことを普段から感じますか？（○は1つだけ）  
（複数選択している場合は、就学または就労したくない一番の理由を基にお答えください。）

「全く感じない」が25.0%と最も多く、次いで「常を感じている」と「あまり感じない」がそれぞれ14.6%となっている。

(N=48)

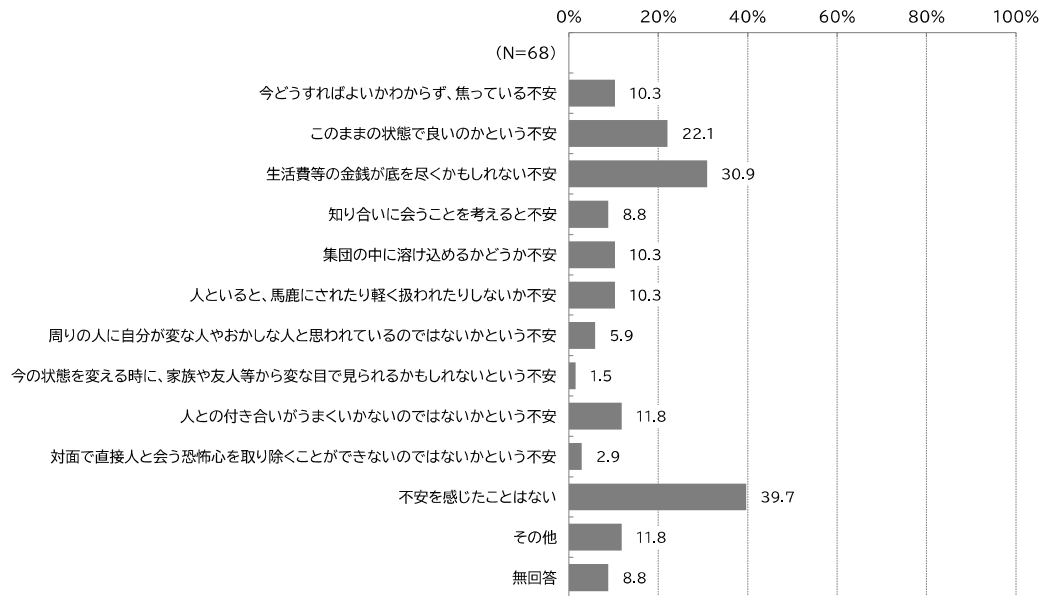


その他の内容 (2件)

- 高齢のため (2件)

問 32 あなたは次のことについて不安を感じる時がありますか？（○はいくつでも）

「不安を感じたことはない」が39.7%と最も多く、次いで「生活費等の金銭が底を尽くかもしれない不安」が30.9%、「このままの状態が良いのかという不安」が22.1%となっている。

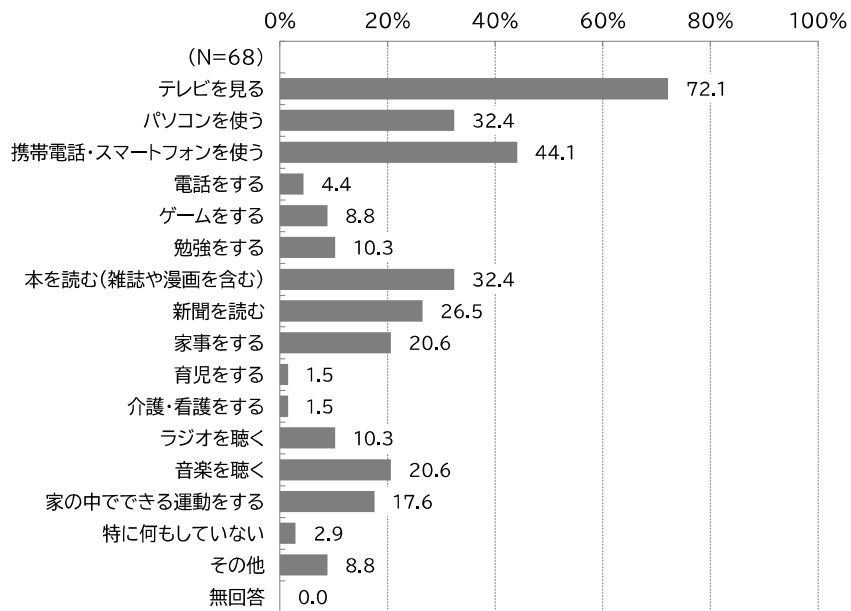


その他の主な内容（6件）

- 健康や体調面に関することについて（3件）
- 住居について（1件）
- 将来に関する不安はあるが、積極的に人とつきあいたい希望がない（1件）

問 33 あなたが自宅をよくしていることをご回答ください。(〇はいくつでも)

「テレビを見る」が72.1%と最も多く、次いで「携帯電話・スマートフォンを使う」が44.1%、「パソコンを使う」と「本を読む(雑誌や漫画を含む)」がそれぞれ32.4%となっている。

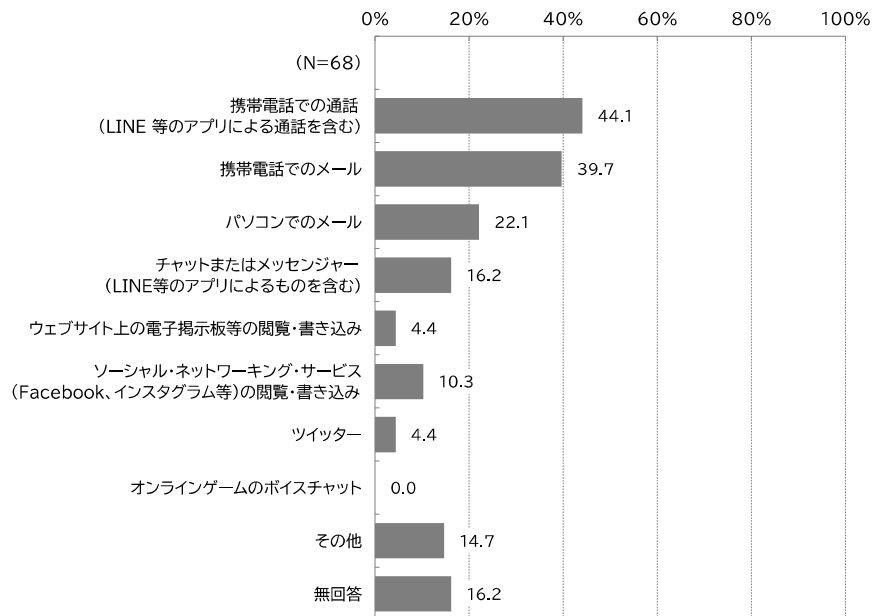


その他の主な内容 (6件)

● ラジオ体操に行く (1件)
● 楽器を演奏する (1件)
● YouTubeを見る (1件)
● ペットと触れ合う (1件)
● 歌をうたう (1件)

問 34 あなたが普段利用している通信手段の中で、利用しているものを教えてください。  
(〇はいくつでも)

「携帯電話での通話 (LINE 等のアプリによる通話を含む)」が 44.1% と最も多く、次いで「携帯電話でのメール」が 39.7%、「パソコンでのメール」が 22.1% となっている。

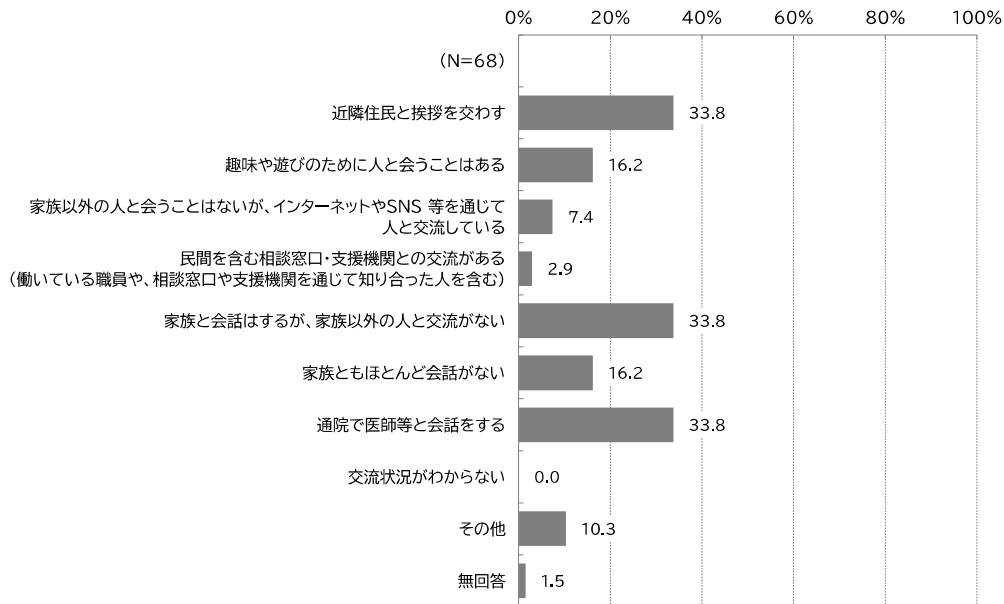


その他の内容 (10 件)

- 固定電話 (5 件)
- 特になし (4 件)
- スマートフォン (1 件)

問 35 あなたの交流状況について教えてください。(〇はいくつでも)

「近隣住民と挨拶を交わす」、「家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない」、「通院で医師等と会話をする」がそれぞれ 33.8%となっている。



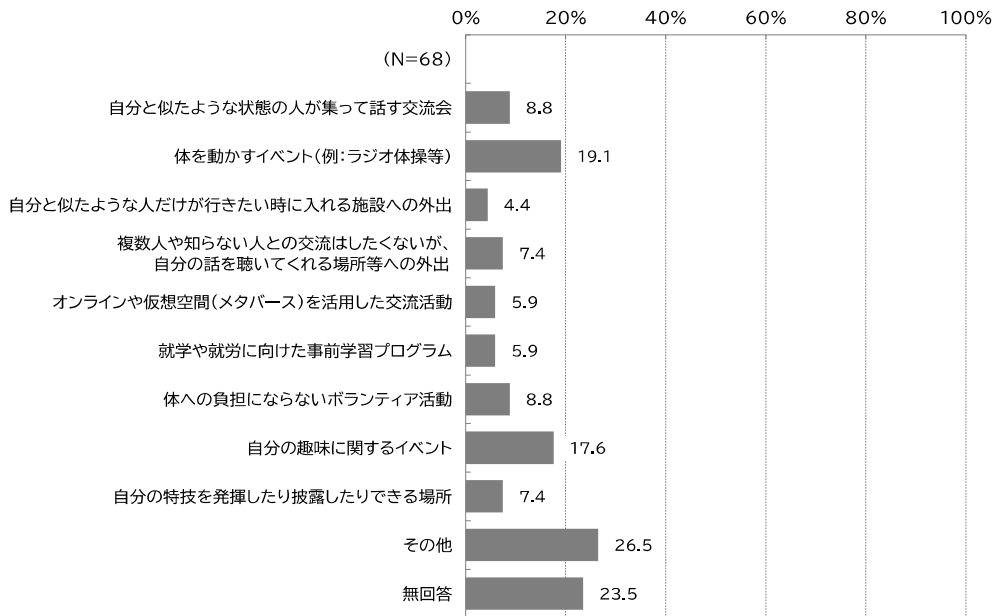
その他の主な内容 (7 件)

● 施設の職員等と会話を	する (3 件)
● 別居の家族と SNS 等を通じて連絡を取る	(1 件)
● 学生時代の友人と会う	(1 件)



問 36 社会交流活動で、あなたが参加したいと感じる交流活動を教えてください。(〇はいくつでも)

「その他」(26.5%)を除くと、「体を動かすイベント(例:ラジオ体操等)」が19.1%と最も多く、次いで「自分の趣味に関するイベント」が17.6%となっている。

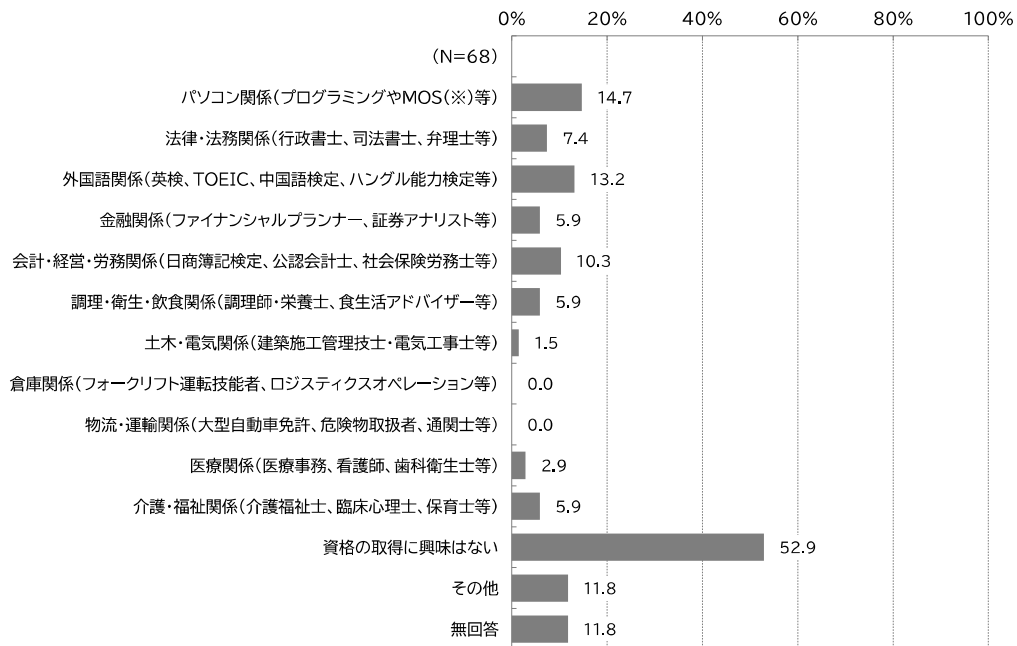


その他の主な内容 (17 件)

● 特にない (13 件)
● 港区国際交流協会員 (1 件)
● いきいきプラザ (1 件)
● 交流活動はしたくない (1 件)

問 37 次の中であなたが興味のある資格を教えてください。(〇はいくつでも)

「資格の取得に興味はない」が 52.9%と最も多く、次いで「パソコン関係(プログラミングや MOS(※)等)」が 14.7%、「外国語関係(英検、TOEIC、中国語検定、ハングル能力検定等)」が 13.2%となっている。



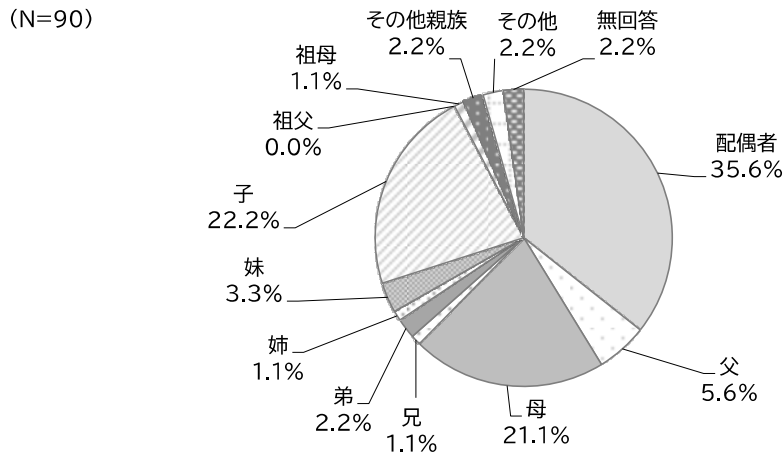
その他の主な内容 (7 件)

● 特になし (4 件)
● 旅行関係 (1 件)
● 技術工(経営工学部門) (1 件)

問 38 から問 54 は、問 16 で「2. 同居人」を選択した人が回答。

問 38 問 8 の状態にある同居人とあなたの関係性は、次のうちどれですか？

「配偶者」が 35.6% と最も多く、次いで「子」が 22.2%、「母」が 21.1% となっている。「配偶者」、「母」、「子」の合計は 78.9% である。

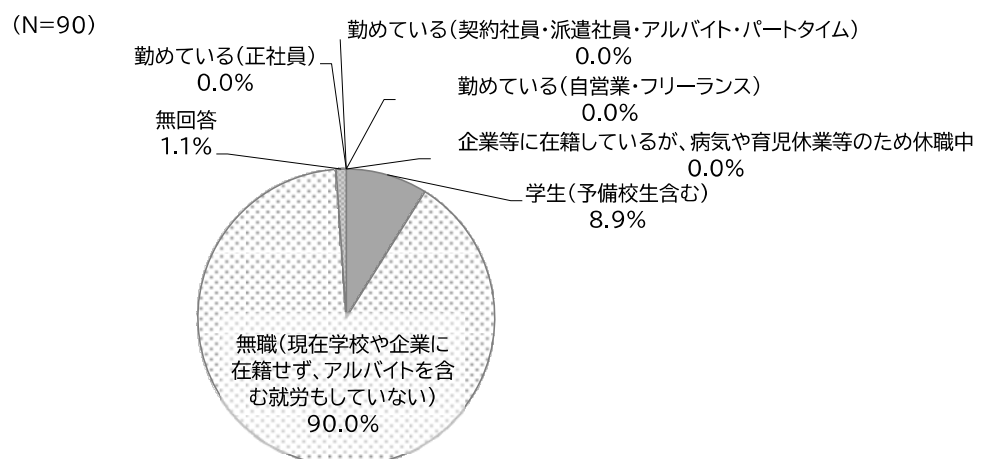


その他の内容 (2 件)

- パートナー (1 件)
- 義理の親 (1 件)

問 39 問 8 の状態にある同居人の現在の就学・就労状況を教えてください。(○は 1 つだけ)

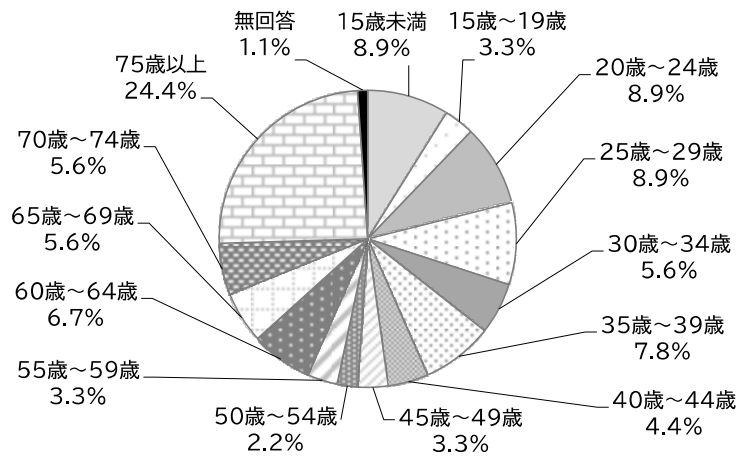
「無職 (現在学校や企業に在籍せず、アルバイトを含む就労もしていない)」が 90.0% と最も多く、次いで「学生 (予備校生含む)」が 8.9% となっている。



問 40 問 8 の状態にある同居人が、問 8 の状態になったのは何歳の頃ですか（○は 1 つだけ）。

「75 歳以上」24.4%と最も多い。39 歳以下の合計が 43.4%、15 歳から 64 歳以下が 54.4%、65 歳以上が 35.6%、70 歳以上が 30.0%となっている。

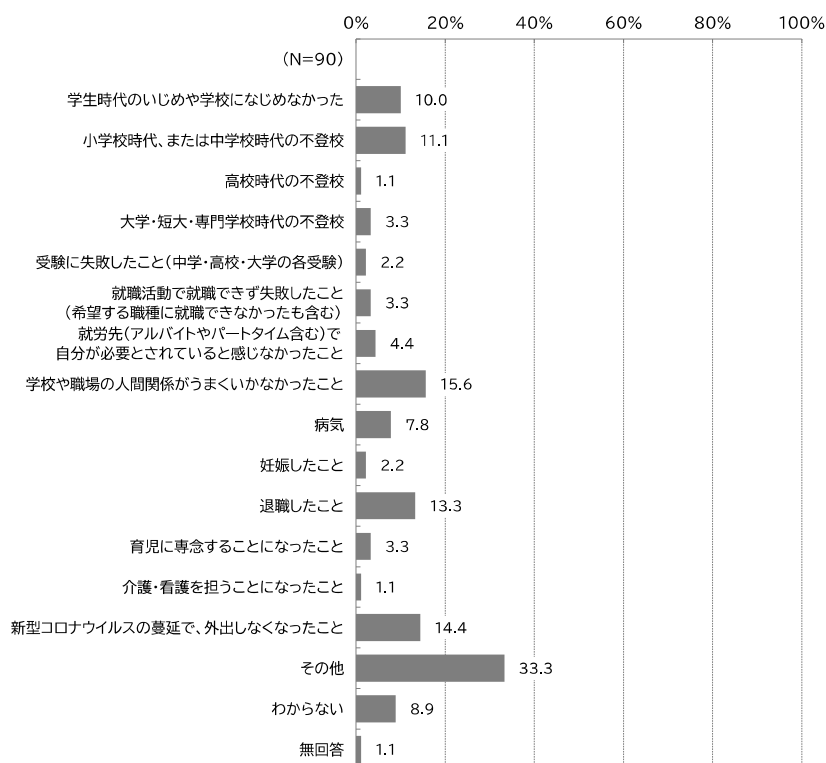
(N=90)



問 41 問 8 の状態にある同居人が、問 8 の状態になったと思われるきっかけは何ですか？  
 (〇はいくつでも)

「その他」(33.3%)を除くと、「学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと」が15.6%で最も多く、次いで「新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと」が14.4%となっている。

また、「退職したこと」が13.3%、「小学校時代、または中学校時代の不登校」が11.1%、「学生時代のいじめや学校になじめなかった」が10.0%であり、ひきこもりの状態になったと思われるきっかけは、人間関係が契機となっている場合が比較的多い。



#### 病名の内容 (5 件)

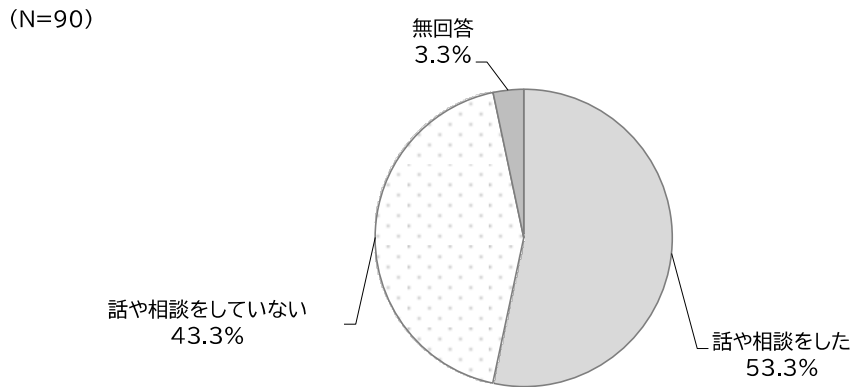
● 認知症 (2 件)
● 双極性障害 (1 件)
● 適応障害 (1 件)
● 新型コロナウイルス感染症 (1 件)

#### その他の主な内容 (32 件)

● 高齢のため (11 件)
● 認知症のため (3 件)
● 家族の死 (3 件)
● 転居のため (3 件)

問 42 問 8 の状態にある同居人について、誰かに話や相談をしましたか？（○は 1 つだけ）

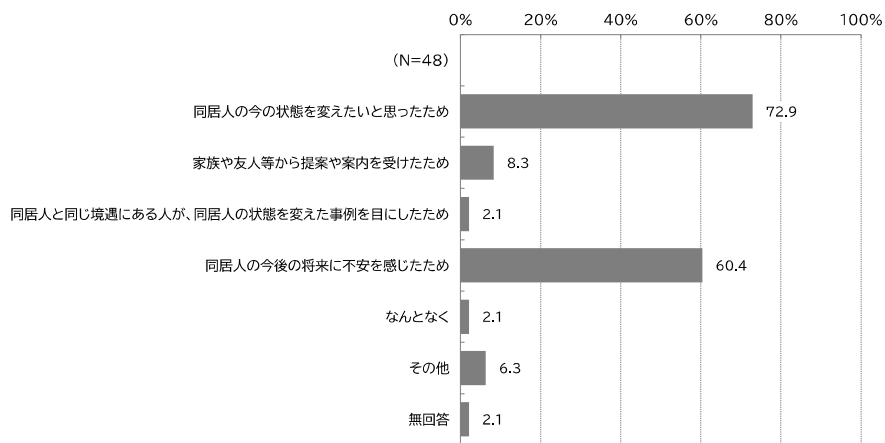
「話や相談をした」が 53.3%、「話や相談をしていない」が 43.3%となっている。



問 43 から問 45 は、問 42 で「1. 話や相談をした」を選択した人が回答。

問 43 話や相談をしたきっかけは何ですか？（○はいくつでも）

「同居人の今の状態を変えたいと思ったため」が 72.9%と最も多く、次いで「同居人の今後の将来に不安を感じたため」が 60.4%となっている。

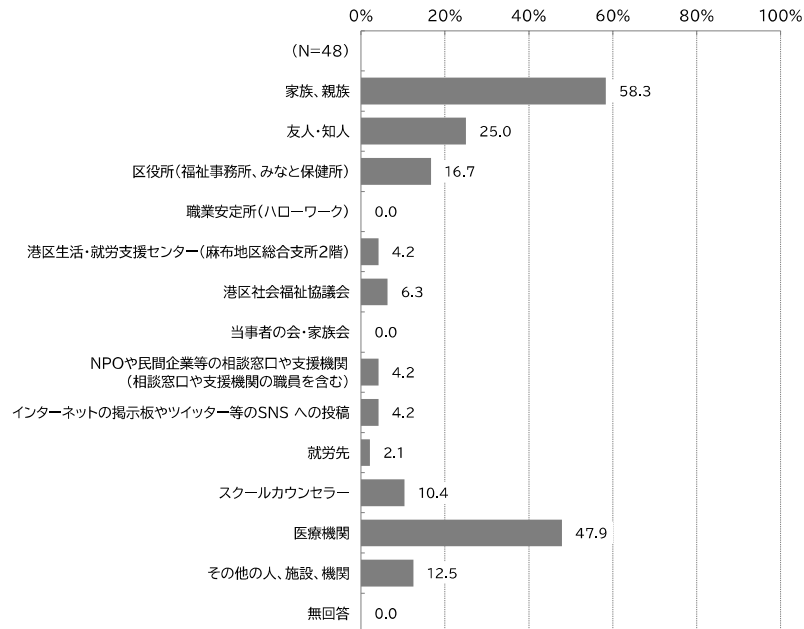


その他の内容（3 件）

- 以前より児童相談所に通っている（1 件）
- 医師の勧め（1 件）
- 高齢になったため（1 件）

問 44 どこ（または誰）に話や相談をしましたか？（○はいくつでも）

「家族、親族」が58.3%と最も多く、次いで「医療機関」が47.9%、「友人・知人」が25.0%となっている。

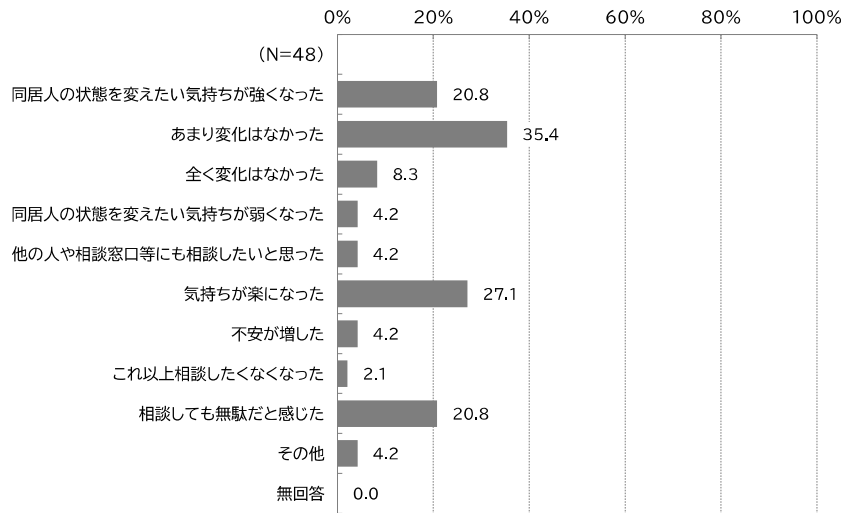


その他の内容（7件）

● 港区児童相談所（2件）
● 特別養護老人ホーム（1件）
● 家庭支援センター（1件）
● 教育センター（1件）
● 港区立精神障害支援センター（1件）
● 社会福祉士（1件）

問 45 話や相談をした結果、どのような心境変化がありましたか？（〇はいくつでも）

「あまり変化はなかった」が35.4%と最も多く、次いで「気持ちが楽になった」が27.1%、「同居人の状態を変えたい気持ちが強くなった」と「相談しても無駄だと感じた」がそれぞれ20.8%となっている。



その他の内容（2件）

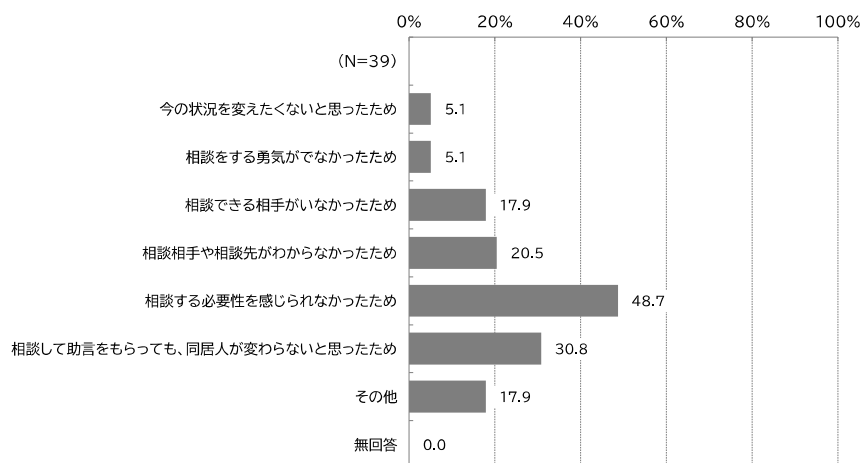
- 本人の行動にはつながらなかった（2件）



問 46 は、問 42 で「2. 話や相談をしていない」を選択した人が回答。

問 46 相談をしていない（またはしなかった）理由はなんですか？（〇はいくつでも）

「相談する必要性を感じられなかったため」が 48.7% と最も多く、次いで「相談して助言をもらっても、同居人が変わらないと思ったため」が 30.8%、「相談相手や相談先がわからなかったため」が 20.5% となっている。

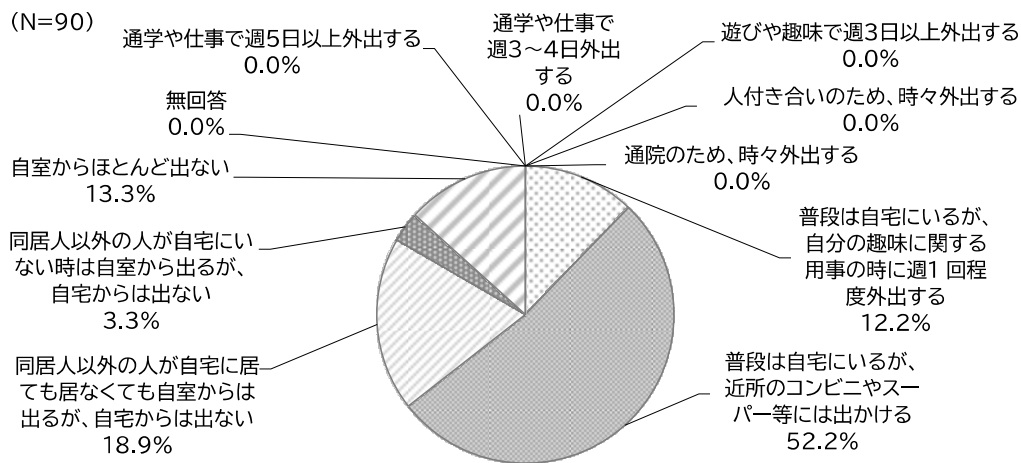


#### その他の内容（6件）

● 親族の反対があるため（1件）
● 介護や介助をする親族がいるため（1件）
● 本人が同行できないため（1件）
● 本人に危機感がないため（1件）
● すでに先の予定が決まっているため（1件）
● 困っていないため（1件）

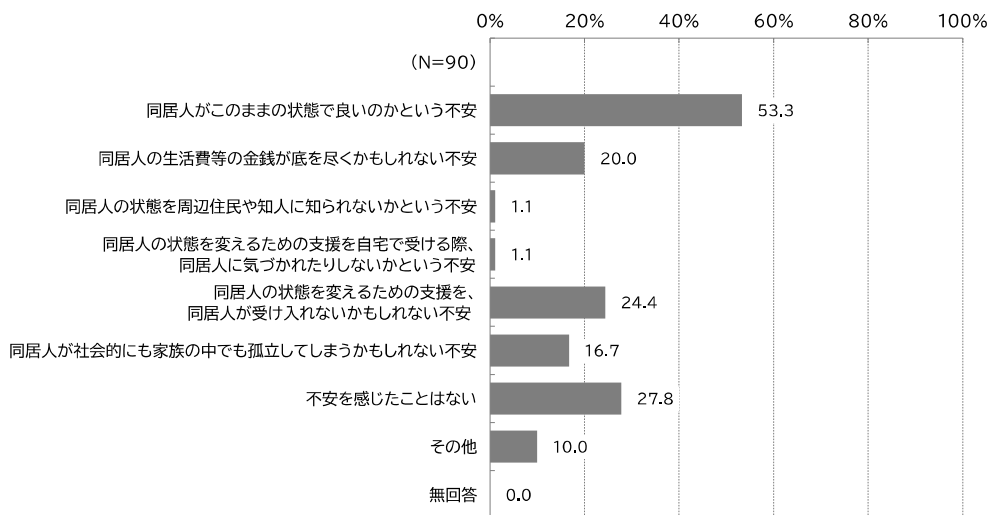
問 47 問8の状態にある同居人の外出頻度はどのくらいですか？（○は1つだけ）

「普段は自宅にいるが、近所のコンビニやスーパー等には出かける」が52.2%と最も多く、次いで「同居人以外の方が自宅に居ても居なくても自室からは出るが、自宅からは出ない」が18.9%、「自室からほとんど出ない」が13.3%となっている。



問 48 問8の状態にある同居人に対する、今後の不安はありますか？（○はいくつでも）

「同居人がこのままの状態が良いのかという不安」が53.3%と最も多く、次いで「不安を感じたことはない」が27.8%、「同居人の状態を変えるための支援を、同居人が受け入れないかもしれない不安」が24.4%となっている。

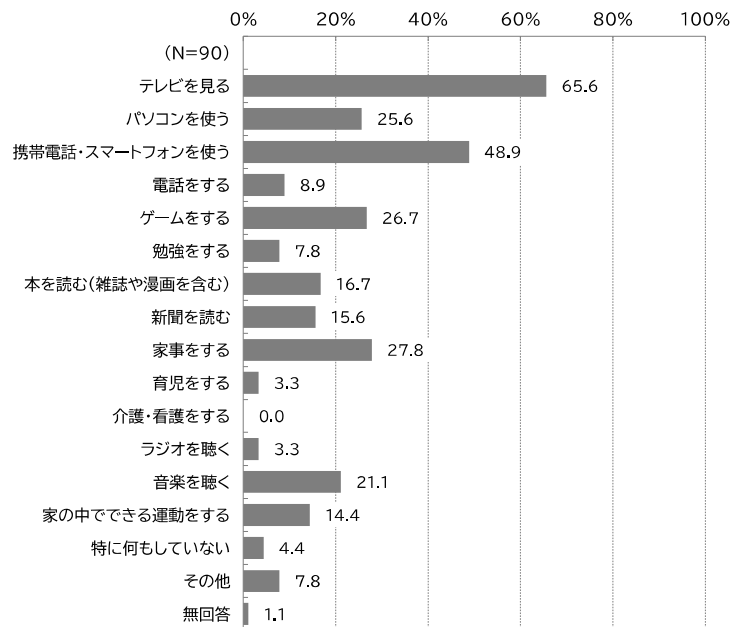


その他の内容（8件）

● 自分がない時間や、自分の死後の生活についての不安（3件）
● 今のところ不安はない（2件）
● 貯金や金銭面についての不安（1件）
● 回答者の死後についての不安（1件）
● 認知症になるのではないかという不安（1件）

問 49 問8の状態にある同居人が、自宅でよくしていることを教えてください。(〇はいくつでも)

「テレビを見る」が65.6%と最も多く、次いで「携帯電話・スマートフォンを使う」が48.9%、「家事をする」が27.8%となっている。

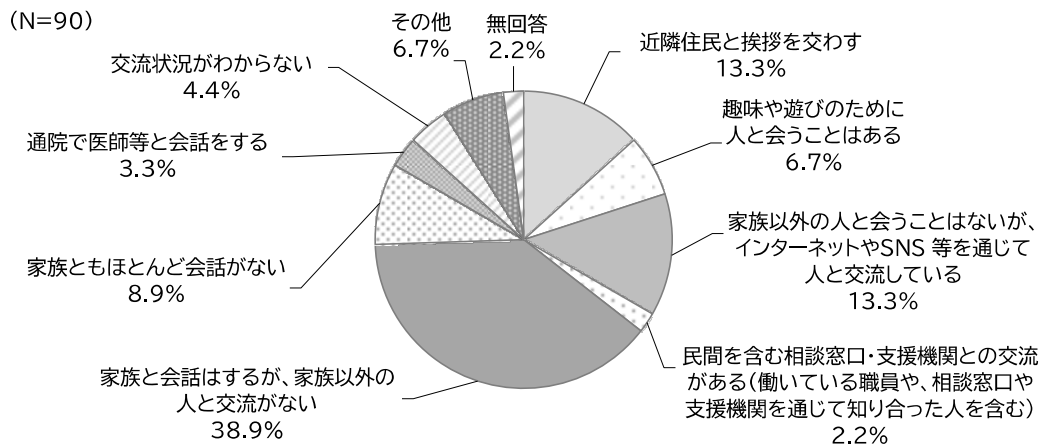


その他の内容 (7件)

● 家事や仕事の手伝い (5件)
● 趣味の活動 (1件)
● 飲酒 (1件)

問 50 問8の状態にある同居人の交流状況について教えてください。(〇は1つだけ)

「家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない」が38.9%と最も多く、次いで「近隣住民と挨拶を交わす」と「家族以外の人と会うことはないが、インターネットやSNS等を通じて人と交流している」がそれぞれ13.3%となっている。

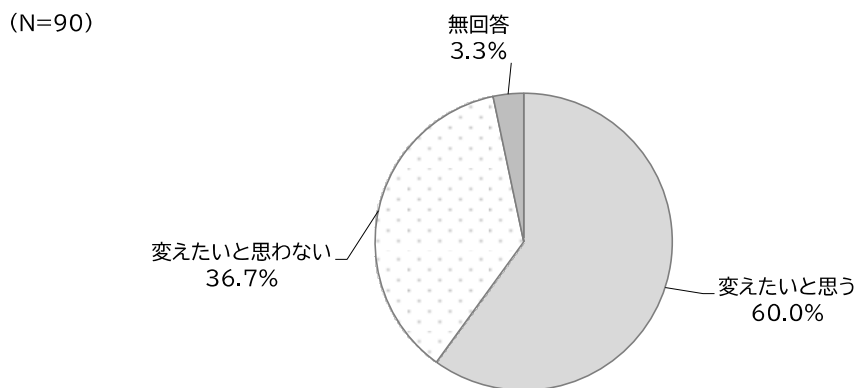


その他の内容 (4件)

● 施設の職員等と交流がある (1件)
● 別居の親族との交流がある (1件)
● 友人との交流がある (1件)
● 他者との交流が難しい状態である (1件)

問 51 問8の状態にある同居人の状態を変えたいと思いますか？(〇は1つだけ)

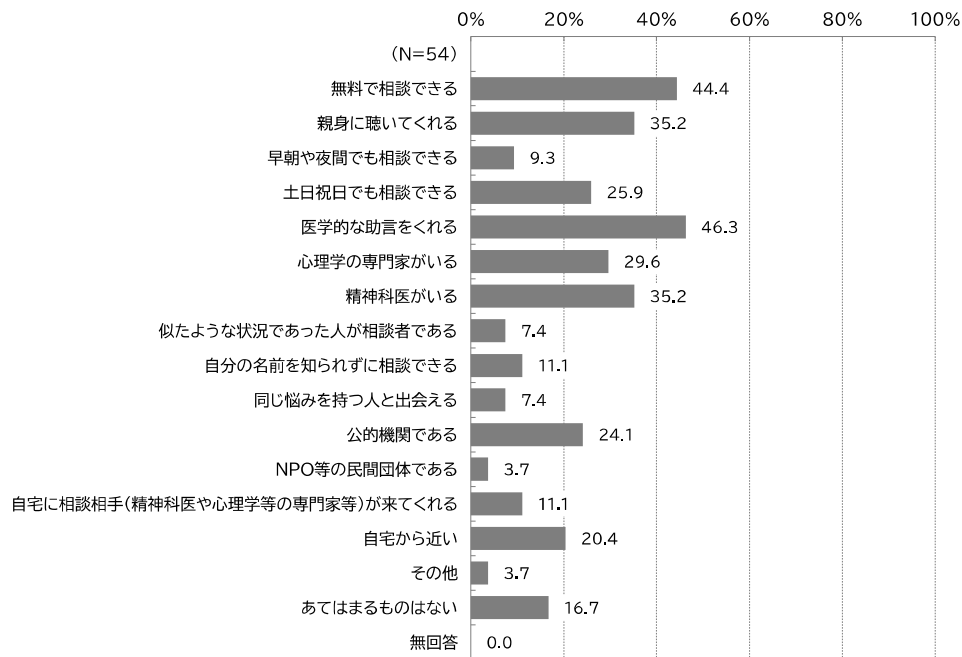
「変えたいと思う」が60.0%、次いで「変えたいと思わない」が36.7%となっている。



問 52 と問 53 は、問 51 で「1. 変えたいと思う」を選択した人が回答。

問 52 問 8 の状態にある同居人を変えるにあたり、相談相手や相談機関への要望内容を教えてください。(〇はいくつでも)

「医学的な助言をくれる」が 46.3% と最も多く、次いで「無料で相談できる」が 44.4%、「親身に聞いてくれる」と「精神科医がいる」がそれぞれ 35.2% となっている。

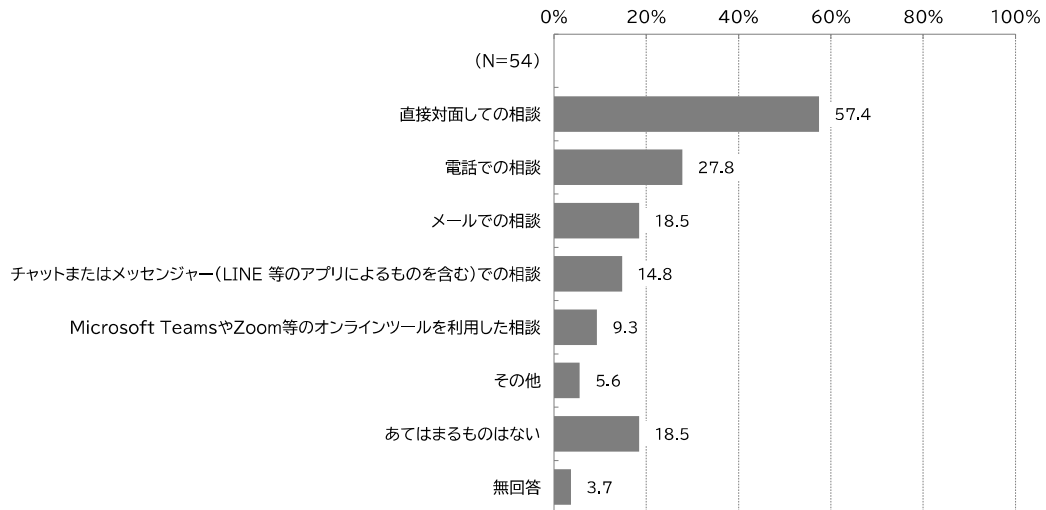


その他の内容 (2 件)

- 体を動かせる機会がほしい (1 件)
- 本人の希望がわからない (1 件)

問 53 問 8 の状態にある同居人を変えるにあたり、相談相手や相談機関へ希望する相談方法を教えてください。(〇はいくつでも)

「直接対面しての相談」が 57.4% と最も多く、次いで「電話での相談」が 27.8%、「メールでの相談」と「あてはまるものはない」がそれぞれ 18.5% となっている。



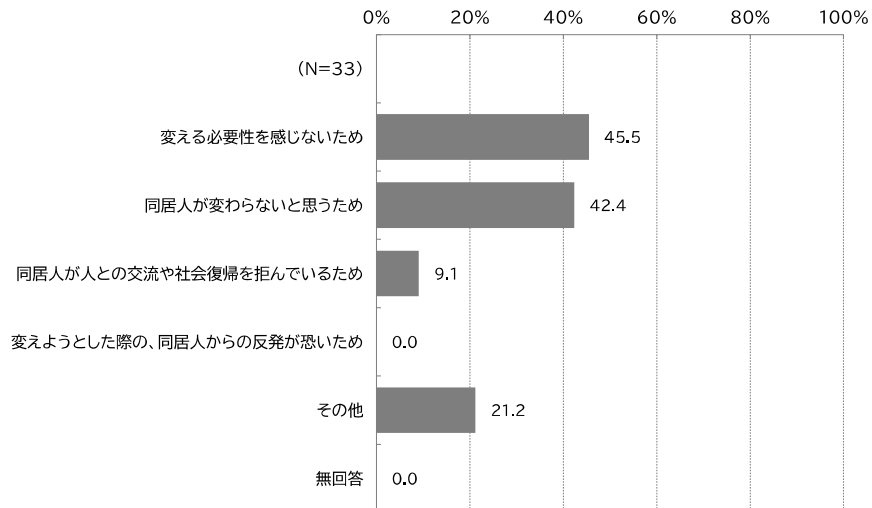
その他の内容 (3 件)

- わからない (1 件)
- すでに治療中 (1 件)
- 本人が相談機関へ行きたがらない (1 件)

問 54 は、問 51 で「2. 変えたいと思わない」を選択した人が回答。

問 54 変えたいと思わない理由をご回答ください。(〇はいくつでも)

「変える必要性を感じないため」が 45.5% と最も多く、次いで「同居人が変わらないと思うため」が 42.4% となっている。



#### その他の内容 (7件)

● 本人の意思でしか変えられないため(2件)
● 現状に問題を感じないため(1件)
● 体調面を優先したいため(1件)
● 高齢のため(1件)
● 無理な変化は望まないため(1件)
● 今後、状況が変わる可能性があるから(1件)

問 55 区では、社会参加に関する支援のあり方などを検討しています。

こうした支援のあり方についてのご意見や、現在、実際にお困りのことなどがあれば、自由にお書きください。

支援のあり方について (996 件)

- |                                |
|--------------------------------|
| ● 支援のあり方についての意見 (507 件)        |
| ● 情報発信・周知方法について (385 件)        |
| ● 支援活動・ボランティアに参加、協力したい (104 件) |

社会参加へのきっかけづくりについて (362 件)

- |                               |
|-------------------------------|
| ● お祭り・行事・セミナー・イベントの開催 (158 件) |
| ● 交流の場の提供 (109 件)             |
| ● 地域コミュニティへの参加促進・活性化 (95 件)   |

対象別支援について (672 件)

- |                             |
|-----------------------------|
| ● 子ども・家庭に関する支援 (183 件)      |
| ● 高齢者に関する支援 (410 件)         |
| ● 障害者・障害児支援 (含む発達障害) (79 件) |

内容別支援について (185 件)

- |                       |
|-----------------------|
| ● 就労支援 (高齢者以外) (67 件) |
| ● 経済的支援 (63 件)        |
| ● 住居支援 (55 件)         |

ひきこもりについて (239 件)

- |                           |
|---------------------------|
| ● ひきこもり対策 (高齢者以外) (189 件) |
| ● 不登校支援 (38 件)            |
| ● 8050 問題 (12 件)          |

環境・まちづくりについて (61 件)

- |                          |
|--------------------------|
| ● まちづくり・緑化推進・気候変動 (29 件) |
| ● 騒音苦情 (19 件)            |
| ● ゴミ問題 (13 件)            |

調査票について (169 件)

- |                          |
|--------------------------|
| ● 調査票全般について (106 件)      |
| ● 「社会参加」の定義が分からない (39 件) |
| ● 「支援内容」が不明 (24 件)       |



## 6-1. クロス集計の結果（回答対象者：回答者本人がひきこもりの状態の場合）

表側	問 10（ひきこもりの該当者の性別）
表頭	問 9（ひきこもりの該当者の年齢）
対象	問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人

ひきこもりの状態になった人の分布は、男女とも 65 歳以上に集中しており、性別による大きな差はみられない。

（上段：度数 下段：%）

	合 計	15歳未満	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳
全 体	67 100.0	-	-	-	2 3.0	2 3.0	-	-
男 性	27 100.0	-	-	-	1 3.7	1 3.7	-	-
女 性	40 100.0	-	-	-	1 2.5	1 2.5	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳以上	無回答
全 体	2 3.0	7 10.4	4 6.0	4 6.0	7 10.4	11 16.4	28 41.8	-
男 性	-	1 3.7	1 3.7	2 7.4	4 14.8	6 22.2	11 40.7	-
女 性	2 5.0	6 15.0	3 7.5	2 5.0	3 7.5	5 12.5	17 42.5	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

表側	問 11 (ひきこもりの状態の期間)
表頭	問 9 (ひきこもりの該当者の年齢)
対象	問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人

ひきこもりの状態の期間が長いほど、年齢が高くなる傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合 計	15歳未満	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳
全 体	67 100.0	-	-	-	2 3.0	2 3.0	-	-
6か月～1年未満	6 100.0	-	-	-	-	1 16.7	-	-
1年～2年未満	10 100.0	-	-	-	-	-	-	-
2年～3年未満	8 100.0	-	-	-	-	-	-	-
3年～5年未満	19 100.0	-	-	-	2 10.5	-	-	-
5年～7年未満	8 100.0	-	-	-	-	-	-	-
7年～10年未満	6 100.0	-	-	-	-	1 16.7	-	-
10年～15年未満	4 100.0	-	-	-	-	-	-	-
15年～20年未満	4 100.0	-	-	-	-	-	-	-
20年～25年未満	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-	-	-
30年以上	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-
	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳以上	無回答
全体	2 3.0	7 10.4	5 7.5	4 6.0	6 9.0	11 16.4	28 41.8	-
6か月～1年未満	-	-	1 16.7	2 33.3	-	-	2 33.3	-
1年～2年未満	1 10.0	-	-	1 10.0	1 10.0	3 30.0	4 40.0	-
2年～3年未満	-	3 37.5	-	-	1 12.5	3 37.5	1 12.5	-
3年～5年未満	-	2 10.5	3 15.8	-	2 10.5	4 21.1	6 31.6	-
5年～7年未満	-	-	-	-	1 12.5	-	7 87.5	-
7年～10年未満	-	1 16.7	-	1 16.7	-	-	3 50.0	-
10年～15年未満	1 25.0	-	-	-	1 25.0	-	2 50.0	-
15年～20年未満	-	1 25.0	1 25.0	-	-	-	2 50.0	-
20年～25年未満	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-	-	-
30年以上	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-

表側	問9 (ひきこもりの該当者の年齢)
表頭	問18 (ひきこもりになったきっかけ)
対象	問16で「1. 回答者本人」を選択した人

65歳以上の多くが、新型コロナウイルスの蔓延で外出の機会を失ったことが契機となり、そのままひきこもりの状態になっている。

20代や30代の若年層は、学生時代のいじめ、不登校、職場の人間関係などがきっかけとなったとする回答がある。

(上段:度数 下段:%)

	合計	学生時代のいじめや学校になじめなかった	小学校時代、または中学校時代の不登校	高校時代の不登校	大学・短大・専門学校時代の不登校	受験に失敗したこと(中学・高校・大学の各受験)	就職活動で就職できず失敗したこと(希望する職種に就職できなかったも含む)	就労先(アルバイトやパートタイム含む)で自分が必要とされていると感じなかったこと	学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと	病気
全体	68 100.0	3 4.4	-	-	-	-	2 2.9	4 5.9	5 7.4	8 11.8
15歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15歳～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳～24歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25歳～29歳	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	1 50.0	1 50.0	-	1 50.0
30歳～34歳	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	-	1 50.0	-	-
35歳～39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳～44歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
45歳～49歳	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1 50.0
50歳～54歳	7 100.0	-	-	-	-	-	1 14.3	1 14.3	2 28.6	1 14.3
55歳～59歳	5 100.0	1 20.0	-	-	-	-	-	1 20.0	1 20.0	1 20.0
60歳～64歳	4 100.0	-	-	-	-	-	-	1 25.0	1 25.0	-
65歳～69歳	7 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70歳～74歳	11 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	2 18.2
75歳以上	28 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	2 7.1
	妊娠したこと	退職したこと	育児に専念することになったこと	介護・看護を担うことになったこと	新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと	その他	なんとなく	わからない・思い出せない	回答したくない・思い出したくない	無回答
全体	1 1.5	14 20.6	1 1.5	4 5.9	12 17.6	20 29.4	8 11.8	6 8.8	1 1.5	-
15歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15歳～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳～24歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25歳～29歳	1 50.0	-	-	-	-	-	-	1 50.0	-	-
30歳～34歳	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	-	-	-
35歳～39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳～44歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
45歳～49歳	-	-	-	-	-	1 50.0	-	-	-	-
50歳～54歳	-	2 28.6	-	2 28.6	2 28.6	1 14.3	-	-	-	-
55歳～59歳	-	-	-	-	-	4 40.0	-	1 20.0	-	-
60歳～64歳	-	3 75.0	-	1 25.0	-	-	1 25.0	-	-	-
65歳～69歳	-	4 57.1	-	-	1 14.3	1 14.3	1 14.3	-	-	-
70歳～74歳	-	1 9.1	-	-	4 36.4	3 27.3	2 18.2	1 9.1	-	-
75歳以上	-	3 10.7	-	1 3.6	5 17.9	12 42.9	4 14.3	3 10.7	1 3.6	-

表側	問 10 (ひきこもりの該当者の性別)
表頭	問 18 (ひきこもりになったきっかけ)
対象	問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人

男性は、退職したことをきっかけとして、ひきこもりになる傾向にある。女性は、病気や介護・看護、就労、人間関係、など多岐にわたっており、「その他」の回答も女性が多く、「家族の死」の回答は1件を除いて女性の回答である。

また、男女とも新型コロナウイルスの蔓延により外出の機会を失ったことが契機となっているケースも多い。

(上段:度数 下段:%)

	合計	学生時代のいじめや学校になじめなかった	小学校時代、または中学校時代の不登校	高校時代の不登校	大学・短大・専門学校時代の不登校	受験に失敗したこと (中学・高校・大学の各受験)	就職活動で就職できず失敗したこと (希望する職種に就職できなかったも含む)	就労先(アルバイトやパートタイム含む)で自分が必要とされていると感じなかったこと	学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと	病 気
全 体	67 100.0	2 3.0	-	-	-	-	2 3.0	3 4.5	5 7.5	8 11.9
男 性	27 100.0	1 3.7	-	-	-	-	-	-	2 7.4	3 11.1
女 性	40 100.0	1 2.5	-	-	-	-	2 5.0	3 7.5	3 7.5	5 12.5
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	妊娠したこと	退職したこと	育児に専念することになったこと	介護・看護を担うことになったこと	新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと	その他	なんとなく	わからない・思い出せない	回答したくない・思い出したくない	無回答
全 体	1 1.5	14 20.9	1 1.5	4 6.0	12 17.9	20 29.9	8 11.9	6 9.0	1 1.5	-
男 性	-	9 33.3	-	-	5 18.5	4 14.8	5 18.5	2 7.4	1 3.7	-
女 性	1 2.5	5 12.5	1 2.5	4 10.0	7 17.5	16 40.0	3 7.5	4 10.0	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

#### その他の主な内容 (21 件)

● 家族の死 (6 件)
● 高齢のため (6 件)
● 転居したため (2 件)

表側	問 11 (ひきこもりの状態の期間)
表頭	問 18 (ひきこもりになったきっかけ)
対象	問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人

ひきこもりの状態になった期間が6か月～1年未満の人は、退職したことや、学校や職場の人間関係がうまくいかなかったことがきっかけとなる場合が多い。

1年以上の人も退職をきっかけとしていることが多いほか、新型コロナウイルスの蔓延によって外出の機会を失ったことが契機となった人も多い。

(上段:度数 下段:%)

	合計	学生時代のいじめや学校になじめなかった	小学校時代、または中学校時代の不登校	高校時代の不登校	大学・短大・専門学校時代の不登校	受験に失敗したこと (中学・高校・大学の各受験)	就職活動で就職できず失敗したこと (希望する職種に就職できなかったも含む)	就労先(アルバイトやパートタイム含む)で自分が必要とされていると感じなかったこと	学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと	病 気
全 体	67 100.0	3 4.5	-	-	-	-	2 3.0	4 6.0	5 7.5	8 11.9
6か月～1年未満	6 100.0	-	-	-	-	-	-	1 16.7	1 16.7	-
1年～2年未満	10 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1 10.0
2年～3年未満	8 100.0	-	-	-	-	-	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5
3年～5年未満	19 100.0	2 10.5	-	-	-	-	1 5.3	2 10.5	-	2 10.5
5年～7年未満	8 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1 12.5
7年～10年未満	6 100.0	1 16.7	-	-	-	-	-	-	2 33.3	-
10年～15年未満	4 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1 25.0
15年～20年未満	4 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 25.0	2 50.0
20年～25年未満	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30年以上	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	妊娠したこと	退職したこと	育児に専念することになったこと	介護・看護を担うことになったこと	新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと	その他	なんとなく	わからない・思い出せない	回答したくない・思い出したくない	無回答
全 体	1 1.5	14 20.9	1 1.5	4 6.0	11 16.4	20 29.9	8 11.9	6 9.0	1 1.5	-
6か月～1年未満	-	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	1 16.7	-	-
1年～2年未満	-	2 20.0	-	-	2 20.0	3 30.0	3 30.0	-	-	-
2年～3年未満	-	3 37.5	-	1 12.5	4 50.0	2 25.0	1 12.5	-	-	-
3年～5年未満	1 5.3	2 10.5	-	1 5.3	3 15.8	9 47.4	1 5.3	1 5.3	-	-
5年～7年未満	-	-	-	-	1 12.5	4 50.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	-
7年～10年未満	-	4 66.7	-	-	-	1 16.7	-	-	-	-
10年～15年未満	-	1 25.0	-	-	-	1 25.0	-	1 25.0	-	-
15年～20年未満	-	-	-	1 25.0	-	-	-	1 25.0	-	-
20年～25年未満	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30年以上	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-	-

表側	問9（ひきこもりの該当者の年齢）
表頭	問24（現在の状態について話や相談の希望）
対象	問16で「1. 回答者本人」を選択した人

年代にかかわらず、相談することに対して否定的な傾向にある。

（上段：度数 下段：％）

	合 計	とても 相談したい	ある程度 相談したい	あまり 相談したくない	全く相談しようと 思わない	無回答
全 体	68 100.0	1 1.5	17 25.0	13 19.1	32 47.1	5 7.4
15歳未満	-	-	-	-	-	-
15歳～19歳	-	-	-	-	-	-
20歳～24歳	-	-	-	-	-	-
25歳～29歳	2 100.0	-	1 50.0	-	-	1 50.0
30歳～34歳	2 100.0	-	-	1 50.0	1 50.0	-
35歳～39歳	-	-	-	-	-	-
40歳～44歳	-	-	-	-	-	-
45歳～49歳	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-
50歳～54歳	7 100.0	1 14.3	5 71.4	-	1 14.3	-
55歳～59歳	5 100.0	-	3 60.0	1 20.0	1 20.0	-
60歳～64歳	4 100.0	-	3 75.0	-	1 25.0	-
65歳～69歳	7 100.0	-	-	2 28.6	5 71.4	-
70歳～74歳	11 100.0	-	1 9.1	3 27.3	6 54.5	1 9.1
75歳以上	28 100.0	-	3 10.7	5 17.9	17 60.7	3 10.7

表側	問 10 (ひきこもりの該当者の性別)
表頭	問 24 (現在の状態について話や相談の希望)
対象	問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人

性別にかかわらず、相談することに対して否定的な傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合 計	とても 相談したい	ある程度 相談したい	あまり 相談したくない	全く相談しようと 思わない	無回答
全 体	67 100.0	1 1.5	16 23.9	13 19.4	32 47.8	5 7.5
男 性	27 100.0	-	4 14.8	6 22.2	16 59.3	1 3.7
女 性	40 100.0	1 2.5	12 30.0	7 17.5	16 40.0	4 10.0
その他	-	-	-	-	-	-

表側	問 11 (ひきこもりの状態の期間)
表頭	問 24 (現在の状態について話や相談の希望)
対象	問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人

ひきこもりの状態になった期間にかかわらず、相談することに対して否定的な傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合 計	とても 相談したい	ある程度 相談したい	あまり 相談したくない	全く相談しようと 思わない	無回答
全 体	67 100.0	1 1.5	17 25.4	12 17.9	32 47.8	5 7.5
6か月～1年未満	6 100.0	-	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7
1年～2年未満	10 100.0	-	2 20.0	1 10.0	5 50.0	2 20.0
2年～3年未満	8 100.0	1 12.5	4 50.0	1 12.5	2 25.0	-
3年～5年未満	19 100.0	-	5 26.3	3 15.8	10 52.6	1 5.3
5年～7年未満	8 100.0	-	-	2 25.0	6 75.0	-
7年～10年未満	6 100.0	-	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7
10年～15年未満	4 100.0	-	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-
15年～20年未満	4 100.0	-	-	1 25.0	3 75.0	-
20年～25年未満	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-
30年以上	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-

表側	問 11 (ひきこもりの状態の期間)
表頭	問 28 (就学または就労の希望)
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人</li> <li>・問 6 で「6 無職(現在学校や企業に在籍せず、アルバイトを含む就労もしていない)」を選択した人</li> </ul>

ひきこもりの状態の期間の長さを問わず、概ね就学や就業を希望しない傾向にあるが、ひきこもりの状態の期間が5年未満までは就学や就業への希望が残っているようである。その一方、ひきこもりの状態の期間が10年を超えると、全く希望しなくなる傾向にある。ひきこもりの状態の期間が10年未満と回答した割合は、約79%である。

(上段:度数 下段:%)

	合 計	強く 希望している	希望している が、就学または 就労できる 自信がなく悩 んでいる	自宅での学習 または就労で あれば希望す る	希望はしてい ないが、機会 があればして みたい	全く希望 していない	無回答
全 体	66 100.0	2 3.0	9 13.6	3 4.5	12 18.2	35 53.0	5 7.6
6か月～1年未満	6 100.0	1 16.7	2 33.3	-	1 16.7	2 33.3	-
1年～2年未満	10 100.0	-	-	1 10.0	3 30.0	5 50.0	1 10.0
2年～3年未満	8 100.0	1 12.5	1 12.5	-	4 50.0	2 25.0	-
3年～5年未満	18 100.0	-	5 27.8	2 11.1	-	10 55.6	1 5.6
5年～7年未満	8 100.0	-	-	-	-	6 75.0	2 25.0
7年～10年未満	6 100.0	-	1 16.7	-	1 16.7	4 66.7	-
10年～15年未満	4 100.0	-	-	-	1 25.0	3 75.0	-
15年～20年未満	4 100.0	-	-	-	1 25.0	2 50.0	1 25.0
20年～25年未満	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-	-
30年以上	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-



表側	問 10 (ひきこもりの該当者の性別)
表頭	問 30 (就学または就労したくない理由)
対象	・ 問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人 ・ 問 28 で「4. 希望はしていないが、機会があればしてみたい」または、「5. 全く希望していない」を選択した人

男性は、なんとなく必要性を感じていないという回答が多い。

女性は、就学や就労に対して何もできない、希望の仕事に就けないと思う、といった回答や、他人と関わることが苦手といった理由が比較的多くっており、就学・就労に意欲はあるが、自信が無く一歩踏み出せない傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合計	他人と関わるのが苦手なため	過去に人間関係で不快な思いをしたため	父母等からの期待に応えられない自信がないため	受験や就職に失敗し、同じ経験をしたくないため	就学または就労しても続けられないと思うため	就学または就労をする必要性が感じられないため
全体	48 100.0	3 6.3	2 4.2	1 2.1	- -	2 4.2	4 8.3
男性	25 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	2 8.0
女性	23 100.0	3 13.0	2 8.7	1 4.3	- -	2 8.7	2 8.7
その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	就学または就労しても、何もできないと思うため	希望している就学先や就労先・職種に就けないと思うため	就学または就労をしたくても、試験や面接で落ちて就学・就労ができないため	なんとなく、特に理由はない	その他	無回答	
全体	5 10.4	3 6.3	2 4.2	9 18.8	26 54.2	5 10.4	
男性	2 8.0	- -	- -	7 28.0	11 44.0	4 16.0	
女性	3 13.0	3 13.0	2 8.7	2 8.7	15 65.2	1 4.3	
その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -	

表側	問 11 (ひきこもりの状態の期間)
表頭	問 31 (問 30 で選択したことを普段から感じる)
対象	・問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人 ・問 28 で「4. 希望はしていないが、機会があればしてみたい」または、「5. 全く希望していない」を選択した人

ひきこもりの状態の期間が短いちは、就学または就労したくない理由を感じているが、期間が長くなるにつれて感じなくなる傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合計	常に 感じている	時々 感じている	あまり 感じない	全く 感じない	就学または就 労の言葉を見 たり聞いたり すると感じる	その他	無回答
全体	47 100.0	7 14.9	4 8.5	6 12.8	12 25.5	-	3 6.4	15 31.9
6か月～1年未満	3 100.0	-	-	1 33.3	1 33.3	-	-	1 33.3
1年～2年未満	8 100.0	2 25.0	-	1 12.5	1 12.5	-	-	4 50.0
2年～3年未満	6 100.0	-	1 16.7	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	2 33.3
3年～5年未満	10 100.0	3 30.0	-	1 10.0	4 40.0	-	1 10.0	1 10.0
5年～7年未満	6 100.0	-	-	-	4 66.7	-	1 16.7	1 16.7
7年～10年未満	5 100.0	-	1 20.0	-	-	-	-	4 80.0
10年～15年未満	4 100.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-	-	-	1 25.0
15年～20年未満	3 100.0	1 33.3	-	1 33.3	1 33.3	-	-	-
20年～25年未満	1 100.0	-	-	-	-	-	-	1 100.0
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-	-	-
30年以上	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	-

表側	問 10 (ひきこもりの該当者の性別)
表頭	問 31 (問 30 で選択したことを普段から感じる)
対象	・問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人 ・問 28 で「4. 希望はしていないが、機会があればしてみたい」または、「5. 全く希望していない」を選択した人

男性は概ね感じないが、女性は就学または就労したくない理由を常に感じている傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合計	常に 感じている	時々 感じている	あまり 感じない	全く 感じない	就学または就 労の言葉を見 たり聞いたり すると感じる	その他	無回答
全体	48 100.0	7 14.6	4 8.3	7 14.6	12 25.0	-	3 6.3	15 31.3
男性	25 100.0	2 8.0	1 4.0	5 20.0	8 32.0	-	-	9 36.0
女性	23 100.0	5 21.7	3 13.0	2 8.7	4 17.4	-	3 13.0	6 26.1
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

表側	問 11 (ひきこもりの状態の期間)
表頭	問 32 (不安を感じる時)
対象	問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人

ひきこもりの状態の期間が長くなるにつれて不安を感じない傾向にあるが、生活費等の金銭事情に対する不安は、期間の長さにかかわらず感じている。

(上段:度数 下段:%)

	合 計	今どうすれば よいかわから ず、焦ってい る不安	このままの状 態で良いのか という不安	生活費等の金 銭が底を尽く かもしれない 不安	知り合いに会 うことを考え ると不安	集団の中に溶 け込めるかど うか不安	人となると、 馬鹿にされたり 軽く扱われ たりしないか 不安	
全 体	67 100.0	7 10.4	15 22.4	21 31.3	6 9.0	7 10.4	7 10.4	
6か月～1年未満	6 100.0	1 16.7	1 16.7	2 33.3	-	-	-	
1年～2年未満	10 100.0	-	1 10.0	2 20.0	-	1 10.0	1 10.0	
2年～3年未満	8 100.0	3 37.5	3 37.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0	
3年～5年未満	19 100.0	3 15.8	5 26.3	6 31.6	3 15.8	2 10.5	2 10.5	
5年～7年未満	8 100.0	-	-	2 25.0	-	1 12.5	-	
7年～10年未満	6 100.0	-	1 16.7	3 50.0	-	-	-	
10年～15年未満	4 100.0	-	3 75.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	
15年～20年未満	4 100.0	-	-	2 50.0	-	-	1 25.0	
20年～25年未満	1 100.0	-	1 100.0	1 100.0	-	-	-	
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-	-	
30年以上	1 100.0	-	-	-	-	-	-	
		周りの人に自 分が変な人や おかしい人と思 われているの ではないかとい う不安	今の状態を変 える時に、家 族や友人等か ら変な目で見 られるかもし れないという 不安	人との付き合 いがうまくい かないのでは ないかという 不安	対面で直接人 と会う恐怖心 を取り除くこ とができない のではないか という不安	不安を感じた ことはない	その他	無回答
全 体	4 6.0	1 1.5	8 11.9	2 3.0	26 38.8	8 11.9	6 9.0	
6か月～1年未満	-	-	1 16.7	-	1 16.7	1 16.7	1 16.7	
1年～2年未満	-	-	-	-	4 40.0	3 30.0	1 10.0	
2年～3年未満	2 25.0	-	2 25.0	1 12.5	3 37.5	1 12.5	-	
3年～5年未満	1 5.3	-	3 15.8	-	8 42.1	1 5.3	2 10.5	
5年～7年未満	-	-	-	-	5 62.5	1 12.5	-	
7年～10年未満	-	-	-	-	2 33.3	1 16.7	1 16.7	
10年～15年未満	1 25.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	-	-	
15年～20年未満	-	-	-	-	1 25.0	-	1 25.0	
20年～25年未満	-	-	-	-	-	-	-	
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-	-	
30年以上	-	-	-	-	1 100.0	-	-	

表側	問 10 (ひきこもりの該当者の性別)
表頭	問 32 (不安を感じる時)
対象	問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人

男性は不安を感じない傾向にある一方、女性は生活費等の金銭事情に対する不安を感じている傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合 計	今どうすればよいかかわからず、焦っている不安	このままの状態が良いのかという不安	生活費等の金銭が底を尽くかもしれない不安	知り合いに会うことを考えると不安	集団の中に溶け込めるかどうか不安	人といると、馬鹿にされたり軽く扱われたりしないか不安
全 体	67 100.0	6 9.0	15 22.4	20 29.9	6 9.0	7 10.4	6 9.0
男 性	27 100.0	1 3.7	3 11.1	5 18.5	1 3.7	-	1 3.7
女 性	40 100.0	5 12.5	12 30.0	15 37.5	5 12.5	7 17.5	5 12.5
その他	-	-	-	-	-	-	-
	周りの人に自分が変な人やおかしな人と思われているのではないかという不安	今の状態を変える時に、家族や友人等から変な目で見られるかもしれないという不安	人との付き合いがうまくいかないのではないかという不安	対面で直接人と会う恐怖心を取り除くことができないのではないかという不安	不安を感じたことはない	その他	無回答
全 体	4 6.0	1 1.5	7 10.4	2 3.0	27 40.3	8 11.9	6 9.0
男 性	-	-	1 3.7	-	17 63.0	2 7.4	-
女 性	4 10.0	1 2.5	6 15.0	2 5.0	10 25.0	6 15.0	6 15.0
その他	-	-	-	-	-	-	-

表側	問 10 (ひきこもりの該当者の性別)
表頭	問 35 (交流状況)
対象	問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人

男性は、通院で医師等と会話をするが、家族以外との交流がない割合も比較的高い。

女性は、近隣住民と挨拶を交わしたり、「通院で医師等と会話をする」ものの、家族以外の人と交流がない割合も高い。

(上段:度数 下段:%)

	合 計	近隣住民と挨拶を交わす	趣味や遊びのために人と会うことはある	家族以外の人と会うことはないが、インターネットやSNS等を通じて人と交流している	民間を含む相談窓口・支援機関との交流がある (働いている職員や、相談窓口や支援機関を通じて知り合った人を含む)	家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない
全 体	67 100.0	22 32.8	11 16.4	5 7.5	2 3.0	23 34.3
男 性	27 100.0	7 25.9	5 18.5	3 11.1	1 3.7	10 37.0
女 性	40 100.0	15 37.5	6 15.0	2 5.0	1 2.5	13 32.5
その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	家族ともほとんど会話が ない	通院で医師等と 会話を する	交流状況がわ からない	その他	無回答	
全 体	11 16.4	23 34.3	- -	7 10.4	1 1.5	
男 性	2 7.4	10 37.0	- -	1 3.7	1 3.7	
女 性	9 22.5	13 32.5	- -	6 15.0	- -	
その他	- -	- -	- -	- -	- -	

表側	問 10 (ひきこもりの該当者の性別)
表頭	問 36 (参加したいと感じる社会交流活動)
対象	問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人

男女とも体を動かすイベントや、自分の趣味に関するイベントに興味を持っている様子が見られる。  
 女性は、自分の話を聴いて欲しい傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合 計	自分と似たような状態の人が集って話す交流会	体を動かすイベント (例:ラジオ体操等)	自分と似たような人だけが行きたい時に入れる施設への外出	複数人や知らない人との交流はしたくないが、自分の話を聴いてくれる場所等への外出	オンラインや仮想空間(メタバース)を活用した交流活動
全 体	67 100.0	5 7.5	13 19.4	3 4.5	5 7.5	4 6.0
男 性	27 100.0	3 11.1	5 18.5	- -	- -	2 7.4
女 性	40 100.0	2 5.0	8 20.0	3 7.5	5 12.5	2 5.0
その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	就学や就労に向けた事前学習プログラム	体への負担にならないボランティア活動	自分の趣味に関するイベント	自分の特技を発揮したり披露したりできる場所	その他	無回答
全 体	3 4.5	5 7.5	12 17.9	5 7.5	18 26.9	16 23.9
男 性	1 3.7	1 3.7	4 14.8	2 7.4	6 22.2	8 29.6
女 性	2 5.0	4 10.0	8 20.0	3 7.5	12 30.0	8 20.0
その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -

表側	問 11 (ひきこもりの状態の期間)
表頭	問 37 (興味のある資格)
対象	問 16 で「1. 回答者本人」を選択した人

ひきこもりの状態の期間が短い該当者は資格の取得に興味があるものの、期間が7年を過ぎると興味を示さなくなる傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合計	パソコン関係 (プログラミン グやMOS(※)等)	法律・ 法務関係 (行政書士、司 法書士、弁理士 等)	外国語関係 (英検、TOEIC、 中国語検定、ハ ングル能力検定 等)	金融関係 (ファイナン シャルプラン ナー、証券アナ リスト等)	会計・経営・ 労務関係 (日商簿記検 定、公認会計 士、社会保険労 務士等)	調理・衛生・ 飲食関係 (調理師・栄養 士、食生活アド バイザー等)	土木・ 電気関係 (建築施工管理 技士・電気工事 士等)
全体	67 100.0	10 14.9	5 7.5	9 13.4	4 6.0	7 10.4	4 6.0	1 1.5
6か月～1年未満	6 100.0	3 50.0	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	-	-
1年～2年未満	10 100.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	3 30.0	-	-
2年～3年未満	8 100.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	-	-	1 12.5
3年～5年未満	19 100.0	3 15.8	2 10.5	2 10.5	-	2 10.5	3 15.8	-
5年～7年未満	8 100.0	-	-	-	-	-	-	-
7年～10年未満	6 100.0	-	-	-	-	-	-	-
10年～15年未満	4 100.0	-	-	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	-
15年～20年未満	4 100.0	-	-	1 25.0	-	-	-	-
20年～25年未満	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-	-	-
30年以上	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	-
	倉庫関係 (フォークリフ ト運転技能者、 ロジスティクス オペレーション 等)	物流・ 運輸関係 (大型自動車免 許、危険物取扱 者、通関士等)	医療関係 (医療事務、看 護師、歯科衛生 士等)	介護・ 福祉関係 (介護福祉士、 臨床心理士、保 育士等)	資格の取得 興味はない	その他	無回答	
全体	-	-	2 3.0	4 6.0	35 52.2	8 11.9	8 11.9	
6か月～1年未満	-	-	-	1 16.7	1 16.7	2 33.3	-	
1年～2年未満	-	-	-	-	6 60.0	-	1 10.0	
2年～3年未満	-	-	2 25.0	2 25.0	4 50.0	2 25.0	-	
3年～5年未満	-	-	-	1 5.3	8 42.1	4 21.1	2 10.5	
5年～7年未満	-	-	-	-	5 62.5	-	3 37.5	
7年～10年未満	-	-	-	-	5 83.3	-	1 16.7	
10年～15年未満	-	-	-	-	3 75.0	-	-	
15年～20年未満	-	-	-	-	2 50.0	-	1 25.0	
20年～25年未満	-	-	-	-	1 100.0	-	-	
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-	-	
30年以上	-	-	-	-	-	-	-	

## 6-2. クロス集計の結果（回答対象者：同居人がひきこもりの状態の場合）

表側	問 10（ひきこもりの該当者の性別）
表頭	問 9（ひきこもりの該当者の年齢）
対象	問 16 で「2. 同居人」を選択した人

同居人からみた、ひきこもりの状態になった人は、男性では 40 代までの若年層から中年層にかけて比較的多く、女性では高齢層が比較的多い。

（上段:度数 下段:%）

	合 計	15歳未満	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳
全 体	89 100.0	5 5.6	4 4.5	4 4.5	5 5.6	2 2.2	3 3.4	7 7.9
男 性	31 100.0	3 9.7	3 9.7	1 3.2	4 12.9	1 3.2	1 3.2	4 12.9
女 性	58 100.0	2 3.4	1 1.7	3 5.2	1 1.7	1 1.7	2 3.4	3 5.2
その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳以上	無回答
全 体	6 6.7	7 7.9	3 3.4	5 5.6	3 3.4	4 4.5	30 33.7	1 1.1
男 性	2 6.5	3 9.7	- -	3 9.7	- -	- -	5 16.1	1 3.2
女 性	4 6.9	4 6.9	3 5.2	2 3.4	3 5.2	4 6.9	25 43.1	- -
その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -



表側	問 11 (ひきこもりの状態の期間)
表頭	問 9 (ひきこもりの該当者の年齢)
対象	問 16 で「2. 同居人」を選択した人

同居人からみた、ひきこもりの状態になった人は、期間が2年未満の割合が比較的高い。また、当該期間における年齢分布は、20代や30代などの若年層が多い傾向にある。

本人の場合と同様、ひきこもりの状態の期間が長いほど年齢が高くなる傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合計	15歳未満	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳
全 体	90 100.0	5 5.6	4 4.4	4 4.4	5 5.6	2 2.2	3 3.3	7 7.8
6か月～1年未満	12 100.0	2 16.7	-	2 16.7	-	-	-	-
1年～2年未満	13 100.0	1 7.7	2 15.4	1 7.7	2 15.4	1 7.7	1 7.7	-
2年～3年未満	9 100.0	1 11.1	-	-	-	-	-	1 11.1
3年～5年未満	16 100.0	1 6.3	-	-	3 18.8	1 6.3	-	1 6.3
5年～7年未満	8 100.0	-	2 25.0	-	-	-	-	-
7年～10年未満	9 100.0	-	-	1 11.1	-	-	1 11.1	-
10年～15年未満	10 100.0	-	-	-	-	-	1 10.0	3 30.0
15年～20年未満	4 100.0	-	-	-	-	-	-	1 25.0
20年～25年未満	4 100.0	-	-	-	-	-	-	1 25.0
25年～30年未満	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-
30年以上	3 100.0	-	-	-	-	-	-	-
	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳以上	無回答
全 体	6 6.7	7 7.8	3 3.3	5 5.6	3 3.3	4 4.4	31 34.4	1 1.1
6か月～1年未満	-	1 8.3	1 8.3	1 8.3	1 8.3	-	4 33.3	-
1年～2年未満	1 7.7	-	-	-	1 7.7	1 7.7	2 15.4	-
2年～3年未満	-	-	-	1 11.1	1 11.1	-	5 55.6	-
3年～5年未満	1 6.3	2 12.5	-	1 6.3	-	1 6.3	5 31.3	-
5年～7年未満	2 25.0	-	-	-	-	1 12.5	3 37.5	-
7年～10年未満	1 11.1	-	-	-	-	1 11.1	4 44.4	1 11.1
10年～15年未満	-	-	1 10.0	1 10.0	-	-	4 40.0	-
15年～20年未満	-	-	1 25.0	-	-	-	2 50.0	-
20年～25年未満	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	-	-	-	-
25年～30年未満	-	2 100.0	-	-	-	-	-	-
30年以上	-	1 33.3	-	-	-	-	2 66.7	-

表側	問9 (ひきこもりの該当者の年齢)
表頭	問41 (ひきこもりになったきっかけ)
対象	問16で「2. 同居人」を選択した人

同居人からみた、ひきこもりの状態になったきっかけは、年齢が低い人は学校での不登校や職場での人間関係、年齢が高くなるに従い、退職や新型コロナウイルスの蔓延などが契機となっている。

(上段:度数 下段:%)

	合計	学生時代のいじめや学校になじめなかった	小学校時代、または中学校時代の不登校	高校時代の不登校	大学・短大・専門学校時代の不登校	受験に失敗したこと (中学・高校・大学の各受験)	就職活動で就職できず失敗したこと (希望する職種に就職できなかったも含む)	就労先(アルバイトやパートタイム含む)で自分が必要とされていると感じなかったこと	学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと
全体	89 100.0	9 10.1	10 11.2	1 1.1	3 3.4	2 2.2	2 2.2	4 4.5	14 15.7
15歳未満	5 100.0	1 20.0	4 80.0	-	-	-	-	-	1 20.0
15歳～19歳	4 100.0	1 25.0	4 100.0	-	-	-	-	-	-
20歳～24歳	4 100.0	1 25.0	1 25.0	-	-	1 25.0	-	-	1 25.0
25歳～29歳	5 100.0	1 20.0	-	1 20.0	1 20.0	-	1 20.0	1 20.0	2 40.0
30歳～34歳	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
35歳～39歳	3 100.0	1 33.3	1 33.3	-	-	-	1 33.3	-	1 33.3
40歳～44歳	7 100.0	1 14.3	-	-	1 14.3	1 14.3	-	3 42.9	5 71.4
45歳～49歳	6 100.0	-	-	-	1 16.7	-	-	-	-
50歳～54歳	7 100.0	2 28.6	-	-	-	-	-	-	-
55歳～59歳	3 100.0	1 33.3	-	-	-	-	-	-	1 33.3
60歳～64歳	5 100.0	-	-	-	-	-	-	-	3 60.0
65歳～69歳	3 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
70歳～74歳	4 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
75歳以上	31 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	病 気	妊娠したこと	退職したこと	育児に専念することになったこと	介護・看護を担うことになったこと	新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと	その他	わからない	無回答
全体	7 7.9	2 2.2	12 13.5	3 3.4	1 1.1	13 14.6	30 33.7	8 9.0	1 1.1
15歳未満	-	-	-	-	-	1 20.0	1 20.0	-	-
15歳～19歳	-	-	-	-	-	1 25.0	-	-	-
20歳～24歳	1 25.0	-	-	-	-	-	1 25.0	-	-
25歳～29歳	-	-	1 20.0	-	-	-	1 20.0	1 20.0	-
30歳～34歳	-	1 50.0	-	1 50.0	-	-	1 50.0	-	-
35歳～39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳～44歳	-	-	2 28.6	-	-	-	3 42.9	-	-
45歳～49歳	1 16.7	-	1 16.7	1 16.7	-	2 33.3	-	-	1 16.7
50歳～54歳	-	-	-	-	-	1 14.3	2 28.6	2 28.6	-
55歳～59歳	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-	-	-	2 66.7	-	-
60歳～64歳	-	-	2 40.0	-	-	1 20.0	-	-	-
65歳～69歳	-	-	2 66.7	-	-	-	1 33.3	-	-
70歳～74歳	-	-	-	-	-	1 25.0	3 75.0	1 25.0	-
75歳以上	4 12.9	-	3 9.7	1 3.2	1 3.2	6 19.4	15 48.4	4 12.9	-

表側	問 10 (ひきこもりの該当者の性別)
表頭	問 41 (ひきこもりになったきっかけ)
対象	問 16 で「2. 同居人」を選択した人

同居人からみた、ひきこもりの状態になったきっかけは、男性では職場での人間関係や退職、学生時代のいじめ、不登校が多い傾向にある。

女性は、新型コロナウイルスの蔓延による影響や病気によって、ひきこもりになったとする傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合計	学生時代のいじめや学校に なじめなかった	小学校時代、 または中学校 時代の不登校	高校時代の 不登校	大学・短大・ 専門学校時代 の不登校	受験に失敗し たこと (中学・高校・ 大学の各受験)	就職活動で就 職できず失敗 したこと (希望する職種 に就職できな かったも含む)	就労先(アルバ イトやパート タイム含む)で自 分が必要とさ れていると感 じなかったこ と	学校や職場の 人間関係がう まくいかな かったこと
全体	89 100.0	9 10.1	10 11.2	1 1.1	3 3.4	2 2.2	3 3.4	4 4.5	14 15.7
男性	31 100.0	6 19.4	6 19.4	-	2 6.5	1 3.2	2 6.5	3 9.7	12 38.7
女性	58 100.0	3 5.2	4 6.9	1 1.7	1 1.7	1 1.7	1 1.7	1 1.7	2 3.4
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	病 気	妊娠したこと	退職したこと	育児に専念す ることになっ たこと	介護・看護を 担うことにな ったこと	新型コロナウ イルスの蔓延 で、外出しな くなったこと	その他	わからない	無回答
全体	7 7.9	2 2.2	12 13.5	3 3.4	1 1.1	13 14.6	29 32.6	8 9.0	1 1.1
男性	-	-	6 19.4	-	1 3.2	4 12.9	6 19.4	2 6.5	1 3.2
女性	7 12.1	2 3.4	6 10.3	3 5.2	-	9 15.5	23 39.7	6 10.3	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表側	問 11 (ひきこもりの状態の期間)
表頭	問 41 (ひきこもりになったきっかけ)
対象	問 16 で「2. 同居人」を選択した人

同居人からみた、ひきこもりの状態になったきっかけは、学校や職場の人間関係がうまくいってなかったことや、新型コロナウイルスの蔓延の影響が多い傾向にある。

また、ひきこもりの状態になった期間が7年未満の人は、小学校時代、または中学校時代の不登校や退職、新型コロナウイルスが蔓延したことがきっかけと考える傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合計	学生時代のいじめや学校になじめなかった	小学校時代、または中学校時代の不登校	高校時代の不登校	大学・短大・専門学校時代の不登校	受験に失敗したこと (中学・高校・大学の各受験)	就職活動で就職できず失敗したこと (希望する職種に就職できなかったも含む)	就労先(アルバイトやパートタイム含む)で自分が必要とされていると感じなかったこと	学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと
全体	90 100.0	9 10.0	10 11.1	1 1.1	3 3.3	2 2.2	3 3.3	4 4.4	14 15.6
6か月～1年未満	12 100.0	-	2 16.7	-	-	1 8.3	-	-	-
1年～2年未満	13 100.0	1 7.7	3 23.1	-	-	-	1 7.7	-	1 7.7
2年～3年未満	9 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3年～5年未満	16 100.0	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	-	1 6.3	1 6.3	4 25.0
5年～7年未満	8 100.0	1 12.5	2 25.0	-	-	-	-	-	-
7年～10年未満	9 100.0	2 22.2	2 22.2	-	-	-	1 11.1	-	1 11.1
10年～15年未満	10 100.0	2 20.0	-	-	-	1 10.0	-	2 20.0	6 60.0
15年～20年未満	4 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
20年～25年未満	4 100.0	-	-	-	2 50.0	-	-	1 25.0	2 50.0
25年～30年未満	2 100.0	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-
30年以上	3 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	病 気	妊娠したこと	退職したこと	育児に専念することになったこと	介護・看護を担うことになったこと	新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと	その他	わからない	無回答
全体	7 7.8	2 2.2	12 13.3	3 3.3	1 1.1	13 14.4	30 33.3	8 8.9	1 1.1
6か月～1年未満	-	-	3 25.0	-	1 8.3	2 16.7	3 25.0	2 16.7	-
1年～2年未満	1 7.7	-	1 7.7	-	-	3 23.1	5 38.5	1 7.7	-
2年～3年未満	-	-	1 11.1	-	-	2 22.2	6 66.7	-	-
3年～5年未満	2 12.5	1 6.3	3 18.8	1 6.3	-	4 25.0	4 25.0	-	1 6.3
5年～7年未満	1 12.5	-	-	-	-	1 12.5	4 50.0	-	-
7年～10年未満	2 22.2	-	1 11.1	1 11.1	-	-	-	3 33.3	-
10年～15年未満	1 10.0	1 10.0	3 30.0	-	-	1 10.0	3 30.0	-	-
15年～20年未満	-	-	-	-	-	-	4 100.0	-	-
20年～25年未満	-	-	-	-	-	-	1 25.0	-	-
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30年以上	-	-	-	1 33.3	-	-	-	2 66.7	-

#### その他の主な内容 (32 件)

● 高齢のため (11 件)
● 認知症のため (3 件)
● 家族の死 (3 件)
● 転居のため (3 件)

表側	問9 (ひきこもりの該当者の年齢)
表頭	問46 (相談をしていない (またはしなかった) 理由)
対象	・問16で「2. 同居人」を選択した人 ・問42で「2. 話や相談をしていない」を選択した人

同居人の状態について誰にも話や相談をしなかった理由として、年齢が高くなるに従い「相談する必要性を感じない」が多くみられる。30歳後半から50歳代では「相談して助言をもらっても、同居人が変わらないと思ったため」との回答があった。

また、20代では「今の状況を変えたくないと思ったため」との回答があった。

(上段:度数 下段:%)

	合計	今の状況を変えたくないと思ったため	相談をする男気がでなかったため	相談できる相手がいなかったため	相談相手や相談先がわからなかったため	相談する必要性を感じられなかったため	相談して助言をもらっても、同居人が変わらないと思ったため	その他	無回答
全体	38 100.0	2 5.3	1 2.6	6 15.8	8 21.1	19 50.0	12 31.6	6 15.8	-
15歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15歳～19歳	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-	-	-
20歳～24歳	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	-	1 50.0	-
25歳～29歳	1 100.0	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-	-
30歳～34歳	1 100.0	-	-	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-
35歳～39歳	3 100.0	-	1 33.3	1 33.3	2 66.7	-	1 33.3	-	-
40歳～44歳	3 100.0	-	-	-	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-
45歳～49歳	3 100.0	-	-	2 66.7	1 33.3	1 33.3	2 66.7	1 33.3	-
50歳～54歳	3 100.0	-	-	-	-	2 66.7	2 66.7	-	-
55歳～59歳	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	1 100.0	-	-
60歳～64歳	3 100.0	-	-	-	1 33.3	3 100.0	-	-	-
65歳～69歳	2 100.0	-	-	-	-	2 100.0	-	-	-
70歳～74歳	3 100.0	-	-	1 33.3	-	2 66.7	-	-	-
75歳以上	12 100.0	-	-	1 8.3	2 16.7	5 41.7	5 41.7	3 25.0	-

表側	問 10 (ひきこもりの該当者の性別)
表頭	問 46 (相談をしていない (またはしなかった) 理由)
対象	・問 16 で「2. 同居人」を選択した人 ・問 42 で「2. 話や相談をしていない」を選択した人

同居人の状態について誰にも話や相談をしなかった理由として、男性は「相談相手や相談先がわからなかったため」が比較的多く、女性は「相談する必要性を感じなかったため」が多い。

(上段:度数 下段:%)

	合 計	今の状況を変えたくないと思ったため	相談をする勇気がでなかったため	相談できる相手がいないため	相談相手や相談先がわからなかったため	相談する必要性を感じられなかったため	相談して助言をもらっても、同居人が変わらないと思ったため	その他	無回答
全 体	38 100.0	2 5.3	2 5.3	7 18.4	7 18.4	19 50.0	11 28.9	6 15.8	-
男 性	7 100.0	-	1 14.3	2 28.6	4 57.1	3 42.9	2 28.6	1 14.3	-
女 性	31 100.0	2 6.5	1 3.2	5 16.1	3 9.7	16 51.6	9 29.0	5 16.1	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表側	問 11 (ひきこもりの状態の期間)
表頭	問 46 (相談をしていない (またはしなかった) 理由)
対象	・問 16 で「2. 同居人」を選択した人 ・問 42 で「2. 話や相談をしていない」を選択した人

同居人の状態について誰にも話や相談をしなかった理由として、ひきこもりの状態の期間のかかわらず、「相談する必要性を感じなかったため」や「相談して助言をもらっても、同居人が変わらないと思ったため」が多く、ひきこもりの状態の期間の長短で優位性は見られない傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合 計	今の状況を変えたくないと思ったため	相談をする勇気がでなかったため	相談できる相手がいないため	相談相手や相談先がわからなかったため	相談する必要性を感じられなかったため	相談して助言をもらっても、同居人が変わらないと思ったため	その他	無回答
全 体	39 100.0	2 5.1	2 5.1	7 17.9	8 20.5	19 48.7	12 30.8	7 17.9	-
6か月～1年未満	5 100.0	1 20.0	-	-	-	3 60.0	1 20.0	1 20.0	-
1年～2年未満	6 100.0	-	-	2 33.3	1 16.7	4 66.7	-	-	-
2年～3年未満	5 100.0	-	-	-	1 20.0	4 80.0	-	-	-
3年～5年未満	7 100.0	1 14.3	-	1 14.3	1 14.3	4 57.1	1 14.3	1 14.3	-
5年～7年未満	2 100.0	-	-	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-
7年～10年未満	5 100.0	-	2 40.0	3 60.0	1 20.0	-	2 40.0	1 20.0	-
10年～15年未満	4 100.0	-	-	-	2 50.0	-	3 75.0	1 25.0	-
15年～20年未満	3 100.0	-	-	-	1 33.3	1 33.3	2 66.7	2 66.7	-
20年～25年未満	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	1 100.0	-	-
25年～30年未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30年以上	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	1 100.0	-	-

表側	問9（ひきこもりの該当者の年齢）
表頭	問48（今後の不安）
対象	問16で「2. 同居人」を選択した人

同居人がひきこもりの状態の場合、今後の不安について、ひきこもりの状態にある人の年齢にかかわらず、同居人がこのままの状態が良いのか不安に思う人の割合が多い。

ひきこもりの状態にある人の年齢が高まるにつれて、不安を感じない傾向にある。

（上段:度数 下段:%）

	合計	同居人がこのままの状態が良いのかという不安	同居人の生活費等の金銭が底を尽くかもしれない不安	同居人の状態を周辺住民や知人に知られないかという不安	同居人の状態を変えるための支援を自宅でする際、同居人に気づかれたいという不安	同居人の状態を変えるための支援を、同居人が受け入れられないかもしれない不安	同居人が社会的にも家族の中でも孤立してしまうかもしれない不安	不安を感じたことはない	その他	無回答
全体	89 100.0	47 52.8	17 19.1	1 1.1	1 1.1	22 24.7	14 15.7	25 28.1	9 10.1	-
15歳未満	5 100.0	3 60.0	1 20.0	-	-	-	1 20.0	1 20.0	1 20.0	-
15歳～19歳	4 100.0	2 50.0	2 50.0	-	-	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	-
20歳～24歳	4 100.0	2 50.0	1 25.0	-	-	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-
25歳～29歳	5 100.0	4 80.0	1 20.0	-	-	-	1 20.0	1 20.0	-	-
30歳～34歳	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	1 50.0	-	-	-
35歳～39歳	3 100.0	2 66.7	-	-	-	2 66.7	3 100.0	-	-	-
40歳～44歳	7 100.0	4 57.1	1 14.3	-	-	3 42.9	1 14.3	2 28.6	1 14.3	-
45歳～49歳	6 100.0	6 100.0	2 33.3	-	-	2 33.3	1 16.7	-	-	-
50歳～54歳	7 100.0	4 57.1	1 14.3	-	-	3 42.9	3 42.9	2 28.6	1 14.3	-
55歳～59歳	3 100.0	1 33.3	1 33.3	-	-	-	1 33.3	2 66.7	-	-
60歳～64歳	5 100.0	2 40.0	2 40.0	-	-	1 20.0	-	2 40.0	1 20.0	-
65歳～69歳	3 100.0	-	1 33.3	-	-	-	-	2 66.7	-	-
70歳～74歳	4 100.0	1 25.0	-	-	-	1 25.0	-	3 75.0	-	-
75歳以上	31 100.0	15 48.4	4 12.9	1 3.2	1 3.2	8 25.8	-	8 25.8	4 12.9	-

表側	問 10 (ひきこもりの該当者の性別)
表頭	問 48 (今後の不安)
対象	問 16 で「2. 同居人」を選択した人

男性に対しては、このままの状態が良いのかという不安が多い。

女性に対しては、不安を感じていないが多いものの、このままの状態が良いのかという不安もほぼ同水準となっている。

(上段:度数 下段:%)

	合計	同居人がこのままの状態が良いのかという不安	同居人の生活費等の金銭が底を尽くかもしれない不安	同居人の状態を周辺住民や知人に知られないかという不安	同居人の状態を変えるための支援を自宅で受ける際、同居人に気づかれたりしないかという不安	同居人の状態を変えるための支援を、同居人が受け入れられないかもしれない不安	同居人が社会的にも家族の中でも孤立してしまうかもしれない不安	不安を感じたことはない	その他	無回答
全体	89 100.0	48 53.9	18 20.2	1 1.1	1 1.1	22 24.7	15 16.9	25 28.1	8 9.0	-
男性	31 100.0	26 83.9	11 35.5	-	-	8 25.8	9 29.0	1 3.2	4 12.9	-
女性	58 100.0	22 37.9	7 12.1	1 1.7	1 1.7	14 24.1	6 10.3	24 41.4	4 6.9	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



表側	問 11 (ひきこもりの状態の期間)
表頭	問 48 (今後の不安)
対象	問 16 で「2. 同居人」を選択した人

ひきこもりの状態の期間が1年未満では不安を感じていないものの、1年以上になると、このままの状態が良いのかという不安や、生活費等の金銭的な不安などを抱える傾向にある。

(上段:度数 下段:%)

	合計	同居人がこのままの状態が良いのかという不安	同居人の生活費等の金銭が底を尽くかもしれない不安	同居人の状態を周辺住民や知人に知られないかという不安	同居人の状態を変えるための支援を自宅でする際、同居人に気づかれたいかという不安	同居人の状態を変えるための支援を、同居人が受け入れないかもしれない不安	同居人が社会的にも家族の中でも孤立してしまうかもしれない不安	不安を感じたことはない	その他	無回答
全 体	90 100.0	48 53.3	18 20.0	1 1.1	1 1.1	22 24.4	15 16.7	25 27.8	9 10.0	-
6か月～1年未満	12 100.0	5 41.7	2 16.7	1 8.3	1 8.3	2 16.7	1 8.3	7 58.3	-	-
1年～2年未満	13 100.0	8 61.5	3 23.1	-	-	1 7.7	3 23.1	2 15.4	1 7.7	-
2年～3年未満	9 100.0	2 22.2	1 11.1	-	-	-	-	4 44.4	2 22.2	-
3年～5年未満	16 100.0	9 56.3	2 12.5	-	-	5 31.3	1 6.3	3 18.8	2 12.5	-
5年～7年未満	8 100.0	5 62.5	3 37.5	-	-	3 37.5	2 25.0	1 12.5	-	-
7年～10年未満	9 100.0	6 66.7	3 33.3	-	-	4 44.4	3 33.3	2 22.2	-	-
10年～15年未満	10 100.0	8 80.0	3 30.0	-	-	4 40.0	3 30.0	2 20.0	1 10.0	-
15年～20年未満	4 100.0	-	-	-	-	1 25.0	-	2 50.0	1 25.0	-
20年～25年未満	4 100.0	2 50.0	1 25.0	-	-	1 25.0	-	-	2 50.0	-
25年～30年未満	2 100.0	2 100.0	-	-	-	1 50.0	2 100.0	-	-	-
30年以上	3 100.0	1 33.3	-	-	-	-	-	2 66.7	-	-

表側	問 10 (ひきこもりの該当者の性別)
表頭	問 50 (交流状況)
対象	問 16 で「2. 同居人」を選択した人

男女とも概ね家族以外の人との交流を持っていないが、近隣住民と挨拶をしたり、インターネットやSNS等を通じた交流をしている人が比較的多い。

(上段:度数 下段:%)

	合 計	近隣住民と挨拶を交わす	趣味や遊びのために人と会うことはある	家族以外の人と会うことはないが、インターネットやSNS等を通じて人と交流している	民間を含む相談窓口・支援機関との交流がある (働いている職員や、相談窓口や支援機関を通じて知り合った人を含む)	家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない
全 体	89 100.0	12 13.5	6 6.7	12 13.5	2 2.2	35 39.3
男 性	31 100.0	3 9.7	2 6.5	4 12.9	1 3.2	12 38.7
女 性	58 100.0	9 15.5	4 6.9	8 13.8	1 1.7	23 39.7
その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	家族ともほとんど会話が ない	通院で医師等と 会話を する	交流状況が わからない	その他	無回答	
全 体	7 7.9	3 3.4	4 4.5	6 6.7	2 2.2	
男 性	3 9.7	- -	2 6.5	4 12.9	- -	
女 性	4 6.9	3 5.2	2 3.4	2 3.4	2 3.4	
その他	- -	- -	- -	- -	- -	

表側	問 11 (ひきこもりの状態の期間)
表頭	問 50 (交流状況)
対象	問 16 で「2. 同居人」を選択した人

概ね家族以外の人との交流を持っていないが、ひきこもりの状態の期間が短い人では、近隣住民と挨拶をしたり、インターネットやSNS等を通じた交流をしたりしている人が比較的多い。

(上段:度数 下段:%)

	合計	近隣住民と挨拶を交わす	趣味や遊びのために人と会うことはある	家族以外の人と会うことはないが、インターネットやSNS等を通じて人と交流している	民間を含む相談窓口・支援機関との交流がある (働いている職員や、相談窓口や支援機関を通じて知り合った人を含む)	家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない
全体	90 100.0	12 13.3	6 6.7	12 13.3	2 2.2	35 38.9
6か月～1年未満	12 100.0	3 25.0	2 16.7	1 8.3	-	4 33.3
1年～2年未満	13 100.0	-	2 15.4	4 30.8	1 7.7	2 15.4
2年～3年未満	9 100.0	2 22.2	1 11.1	1 11.1	-	1 11.1
3年～5年未満	16 100.0	2 12.5	-	2 12.5	1 6.3	8 50.0
5年～7年未満	8 100.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	-	3 37.5
7年～10年未満	9 100.0	1 11.1	-	1 11.1	-	5 55.6
10年～15年未満	10 100.0	-	-	1 10.0	-	7 70.0
15年～20年未満	4 100.0	2 50.0	-	-	-	1 25.0
20年～25年未満	4 100.0	-	-	1 25.0	-	1 25.0
25年～30年未満	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-
30年以上	3 100.0	-	-	-	-	3 100.0
	家族ともほとんど会話が ない	通院で医師等と 会話を する	交流状況が わからない	その他	無回答	
全体	8 8.9	3 3.3	4 4.4	6 6.7	2 2.2	
6か月～1年未満	-	-	1 8.3	1 8.3	-	
1年～2年未満	2 15.4	-	-	1 7.7	1 7.7	
2年～3年未満	1 11.1	2 22.2	1 11.1	-	-	
3年～5年未満	1 6.3	-	1 6.3	1 6.3	-	
5年～7年未満	-	1 12.5	-	1 12.5	-	
7年～10年未満	-	-	-	1 11.1	1 11.1	
10年～15年未満	2 20.0	-	-	-	-	
15年～20年未満	1 25.0	-	-	-	-	
20年～25年未満	-	-	1 25.0	1 25.0	-	
25年～30年未満	1 50.0	-	-	-	-	
30年以上	-	-	-	-	-	

## 7. 分析を終えて

本調査は、区内6万世帯を対象とし、多くの方のご協力のもと、14,070世帯の方から回答を得ることができた。調査の結果を集計し、分析した結果、158世帯がひきこもりの該当者を抱えており、その実態及びニーズとして以下の傾向が見受けられた。今後、この結果について、区のひきこもり支援の施策に反映していく。

### (1) 相談できる場の創出

本調査の結果、ひきこもりの該当者が本人である場合は半数以上、同居人である場合でも4割弱が相談していないという現状が明らかになった。

相談していない理由として、「相談する必要性を感じられなかったため」と思っていることなどが挙げられる。また、相談した結果として、「気持ちが楽になった」との回答が多いなど、一定の効果が認められているものの、「今の状態を変えたい」、「将来が不安」といった能動的な動機は同居人によるものであり、回答者本人は、「家族や友人等から提案や案内を受けたため」といった受動的な動機によるものであった。

相談相手や相談機関への要望については、「無料で相談できる」、「専門的な見地から助言をすすめる」、「親身になって話を聞いてくれる」など、それぞれの人が置かれた状況や心境に合った行政サービスを適切に提供することが求められている。また、直接会って話をするだけでなく、電話やメール、SNS等を介した相談方法など、多様な相談窓口を用意しておく必要性もうかがえた。

以上の分析から、当事者のみならず、家族の方々も含めて気軽に訪れることができ、専門的な助言を受けられる相談の場を創出することが、「ひきこもり」の支援策として重要であると考えられる。それと同時に、自らの意思で現状を変えたいと思えるための環境づくりも必要であると考えられる。

### (2) 多様な行政サービスの提供

本調査によって、ひきこもりの該当者と定義された人の属性は一様ではなく、高齢者は退職や病気によって現在の状態になっている一方で、若年層においては、学校や職場での人間関係などによってひきこもりの状態に至っていることが一定数あると確認された。このような「きっかけ」による人に対しては、教育機関や事業所等、多様な主体との連携により状況の改善を図れる可能性があるといえる。

ひきこもりの該当者は、自分の趣味に関するイベントや体を動かすイベントなどの社会活動への参加に対して一定の関心を持っていることが把握されており、このような活動や交流を通じて、ひきこもりの状態から脱することができる可能性もあると考えられる。

以上の分析から、ひきこもりの該当者がいる世帯の生活状況や求めているニーズは多様であり、それに応えるためには、様々な専門機関が連携し、適切な行政サービスを提供していくことが必要であると考えられる。